

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年 1 月29日
【計算期間】	第27期(自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日)
【ファンド名】	インデックスミリオン ボンドミックスミリオン
【発行者名】	みずほ投信投資顧問株式会社
【代表者の役職氏名】	取締役社長 中村 英剛
【本店の所在の場所】	東京都港区三田三丁目 5 番27号
【事務連絡者氏名】	商品管理部長 三木谷 正直
【連絡場所】	東京都港区三田三丁目 5 番27号
【電話番号】	03-5232-7700
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

## 第一部 【ファンド情報】

### 第1 【ファンドの状況】

#### 1 【ファンドの性格】

##### （1）【ファンドの目的及び基本的性格】

「インデックスミリオン」は、「ミリオン・インデックスマザーファンド」（以下「マザーファンド」といいます。）を通じて、主としてわが国の株式に投資を行い、信託財産の長期的成長を図ることを目的として運用を行い、日経平均株価（日経225）の動きに連動する投資成果を目指します。また、「ボンドミックスミリオン」は、主としてわが国の株式および公社債に投資を行い（株式についてはマザーファンドを通じて投資を行います。）、信託財産の長期的成長と安定した収益の確保を図ることを目的として安定運用を行います。

##### <ファンドの特色>

##### 「インデックスミリオン」

- ・ 「ミリオン・インデックスマザーファンド」受益証券を主要投資対象とし、日経平均株価（日経225）の動きに連動する投資成果を目指します。
- ・ マザーファンドは、日経平均株価に採用されている銘柄の中から200～225銘柄に原則として等株数投資を行い、株式の組入比率を高位に保ちます。

##### 「ボンドミックスミリオン」

- ・ 「ミリオン・インデックスマザーファンド」受益証券およびわが国の公社債を主要投資対象とし、株式投資による信託財産の長期的な成長と、公社債投資による安定した収益の確保を目指します。

各ファンドは、1,000億円を上限に信託金を追加することができます。なお、信託金の上限については、受託会社と合意のうえ変更することができます。

一般社団法人投資信託協会が定める分類方法において、以下のように分類・区分されます。

##### 「インデックスミリオン」

##### <商品分類>

- ・ 商品分類一覧表 （注）当ファンドが該当する商品分類に を付しています。

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉となる資産)	補足分類
単位型	国内	株式	インデックス型
	海外	債券	
追加型	内外	不動産投信	特殊型
		その他資産	
		資産複合	

##### ・商品分類定義

該当分類	分類の定義

追加型	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。
国内	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
株式	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。
インデックス型	目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。

## &lt; 属性区分 &gt;

## ・属性区分一覧表

(注) 当ファンドが該当する属性区分に を付しています。

投資対象資産 (実際の組入資産)	決算頻度	投資対象地域	投資形態
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル	ファミリーファンド
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性	年2回	日本	ファンド・オブ・ファンズ
	年4回	北米	
	年6回(隔月)	欧州	対象インデックス
	年12回(毎月)	アジア	
不動産投信 その他資産 (投資信託証券) 資産複合	日々	オセアニア	日経225 TOPIX その他
	その他	中南米	
		アフリカ	
		中近東(中東)	
		エマージング	

当ファンドが投資信託証券への投資を通じて実質的な投資対象とする資産は、「株式・一般」です。

## ・属性区分定義

該当区分	区分の定義
その他資産 (投資信託証券)	目論見書又は投資信託約款において、主として「株式」、「債券」及び「不動産投信」以外の資産に投資する旨の記載があるものをいい、括弧内の記載はその該当資産を表す。
株式・一般	目論見書又は投資信託約款において、主として株式に投資する旨の記載があるもので、大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいう。 当ファンドは、マザーファンド受益証券(投資信託証券)への投資を通じて、株式に投資を行います。
年1回	目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。
日本	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

ファミリーファンド	目論見書又は投資信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。）を投資対象として投資するものをいう。
日経225	目論見書又は投資信託約款において、日経225（日経平均株価）に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。

- （注1）商品分類および属性区分は、委託会社が目論見書または約款の記載内容等に基づいて分類しています。
- （注2）当ファンドが該当しない商品分類および属性区分の定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）をご覧ください。
- （注3）当ファンドはマザーファンド受益証券（投資信託証券）への投資を通じて、株式を主要投資対象とします。したがって、「商品分類」における投資対象資産と、「属性区分」における投資対象資産の分類・区分は異なります。

## 「ボンドミックスミリオン」

### < 商品分類 >

- ・商品分類一覧表 （注）当ファンドが該当する商品分類に を付しています。

単字型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 （収益の源泉となる資産）
単字型	国内	株式
	海外	債券
追加型	内外	不動産投信
		その他資産
		資産複合

### ・商品分類定義

該当分類	分類の定義
追加型	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。
国内	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
資産複合	目論見書又は投資信託約款において、「株式」、「債券」、「不動産投信」及び「その他資産」のうち、複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

### < 属性区分 >

- ・属性区分一覧表 （注）当ファンドが該当する属性区分に を付しています。

投資対象資産 （実際の組入資産）	決算頻度	投資対象地域	投資形態
---------------------	------	--------	------

株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル	ファミリーファンド
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性	年2回	日本	
不動産投信	年4回	北米	ファンド・オブ・ファンズ
その他資産 資産複合 (債券、その他資産(投資信託証券(株式))) 資産配分固定型 資産配分変更型	年6回(隔月)	欧州	
	年12回(毎月)	アジア	
	日々	オセアニア	
	その他	中南米	
		アフリカ	
		中近東(中東)	
		エマージング	

## ・属性区分定義

該 当 区 分	区 分 の 定 義
資産複合 (債券、その他資産(投資信託証券(株式))) 資産配分固定型	目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいう。なお、括弧内の記載はその該当複数資産を表す。 当ファンドでの株式への投資は、マザーファンド受益証券(投資信託証券)への投資を通じて行います。
年1回	目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。
日本	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
ファミリーファンド	目論見書又は投資信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいう。

(注1) 商品分類および属性区分は、委託会社が目論見書または約款の記載内容等に基づいて分類しています。

(注2) 当ファンドが該当しない商品分類および属性区分の定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<http://www.toushin.or.jp/>)でご覧いただけます。

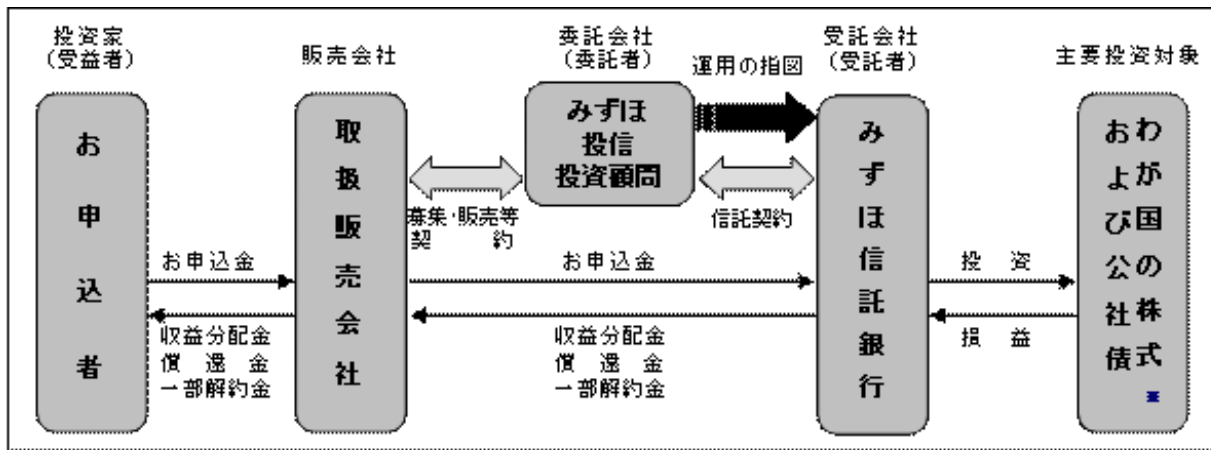
## (2) 【ファンドの沿革】

昭和62年10月30日 信託契約締結、ファンドの設定・運用開始

平成19年1月4日 投資信託振替制度へ移行

## (3) 【ファンドの仕組み】

各ファンドの運営の仕組み



販売会社は委託会社との間で「投資信託受益権の募集・販売等に関する契約書」（募集・販売等契約）を締結し、ファンドに関する主に次の業務を引き受けます。

- (1) 受益権の募集の取扱い・販売
- (2) 受益者の請求に基づく一部解約事務
- (3) 受益者からの受益権の買取り
- (4) 受益者に対する一部解約金、買取代金、収益分配金及び償還金の支払い
- (5) 受益者に対し交付される収益分配金の再投資に係る事務
- (6) 受益者に対する運用報告書等の交付等

委託会社は信託財産の運用の指図、目論見書・運用報告書の作成等を行います。

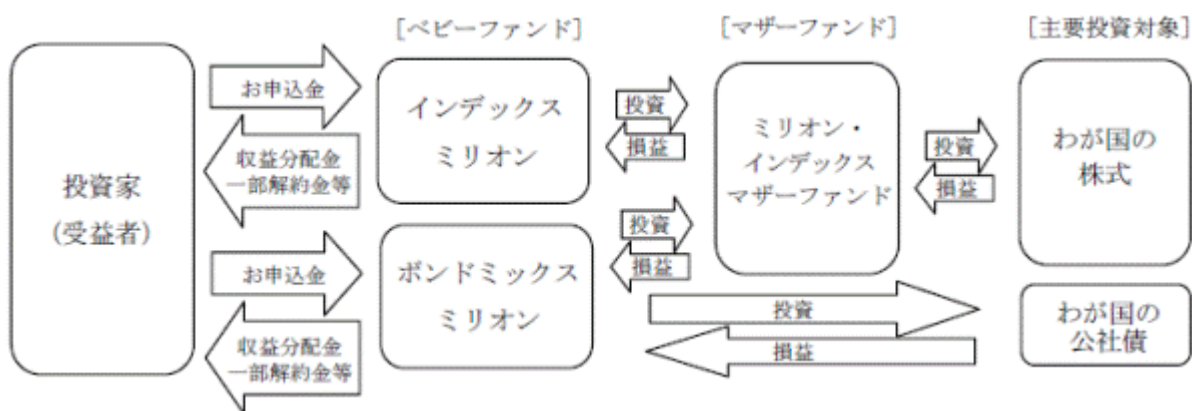
受託会社は信託契約に基づき、信託財産を保管・管理し、受益権設定にかかる振替機関への通知等を行います。なお、信託事務の一部につき資産管理サービス信託銀行株式会社に委託することができます。ただし、外国における資産の保管は、外国の金融機関が行います。

※ 主要投資対象のうちわが国の株式には、ミリオン・インデックスマザーファンドを通じて投資を行います。

### ファミリーファンドの仕組み

各ファンドは「ミリオン・インデックスマザーファンド」をマザーファンドとするファミリーファンド方式で運用を行います。

### ファミリーファンド方式



ファミリーファンド方式とは、投資家の皆様からお預かりした資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資することにより、その実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。

「ボンドミックスミリオン」については、マザーファンドのほかに、わが国の公社債に直接投資します。

## 委託会社の概況

1．資本金の額 20億4,560万円(平成26年10月末日現在)

## 2．会社の沿革

昭和39年5月26日	「朝日証券投資信託委託株式会社」設立
平成9年10月1日	「株式会社第一勸業投資顧問」 「勸角投資顧問株式会社」と合併し、 「第一勸業朝日投信投資顧問株式会社」に商号変更
平成11年7月1日	「第一勸業アセットマネジメント株式会社」に商号変更
平成19年7月1日	「富士投信投資顧問株式会社」と合併し、「みずほ投信投資顧問株式会社」に商号変更

## 3．大株主の状況(平成26年10月末日現在)

名称	住所	所有株式数	比率
株式会社みずほフィナンシャルグループ	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	1,038,408株	98.7%
ロード・アベット・アンド・カンパニー エルエルシー	米国ニュージャージー州ジャージーシ ティー市ハドソン通り90番地	13,662株	1.3%

## 2 【投資方針】

## (1) 【投資方針】

## 基本方針

## 「インデックスミリオン」

この投資信託は、信託財産の長期的成長を図ることを目的として、運用を行います。

## 「ボンドミックスミリオン」

この投資信託は、信託財産の長期的成長と安定した収益の確保を図ることを目的として、安定運用を行います。

## 運用方法

## 1．主要投資対象

## 「インデックスミリオン」

ミリオン・インデックスマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。

## 「ボンドミックスミリオン」

ミリオン・インデックスマザーファンド受益証券およびわが国の公社債を主要投資対象とします。

## 2．投資態度

## 「インデックスミリオン」

・日経平均株価と連動した投資成果を獲得するため、ミリオン・インデックスマザーファンド受益証券への投資は、できるだけ高位を保ちます。

・非株式(株式以外の資産)への実質投資割合<sup>\*</sup>は、原則として信託財産総額の50%以下とします。

## 「ボンドミックスミリオン」

・ミリオン・インデックスマザーファンド受益証券への投資により信託財産の長期的成長を目指し、公社債への投資により利息など安定収益の確保を図ります。

・非株式(株式以外の資産)への実質投資割合<sup>\*</sup>は、原則として信託財産総額の75%以下とします。

\*「実質投資割合」とは、投資対象である当該資産につき、当該ファンドの信託財産に属する当該資産の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該資産のうち当該ファンドの信託財産に属するとみなした額との合計額の当該ファンドの信託財産総額に対する割合をいいます。(以下同じ。)

## 日経平均株価とは

日経平均株価は、東京証券取引所第一部上場銘柄のうち、流動性・業種セクターのバランスを考慮して選択された225銘柄の平均株価です。

日経平均株価は、市況変動以外の要因(採用銘柄の入れ替えや採用銘柄の株式分割など)を除去して指数値の連続性を保っており、わが国の株式市場動向を継続的に捉える指標として広く利用されています。

日経平均株価に関する著作権ならびに「日経」および日経平均株価の表示に対する知的財産権その他一切の権利は、すべて日本経済新聞社に帰属します。  
日本経済新聞社は、日経平均株価の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。  
各ファンドを日本経済新聞社が保証するものではありません。

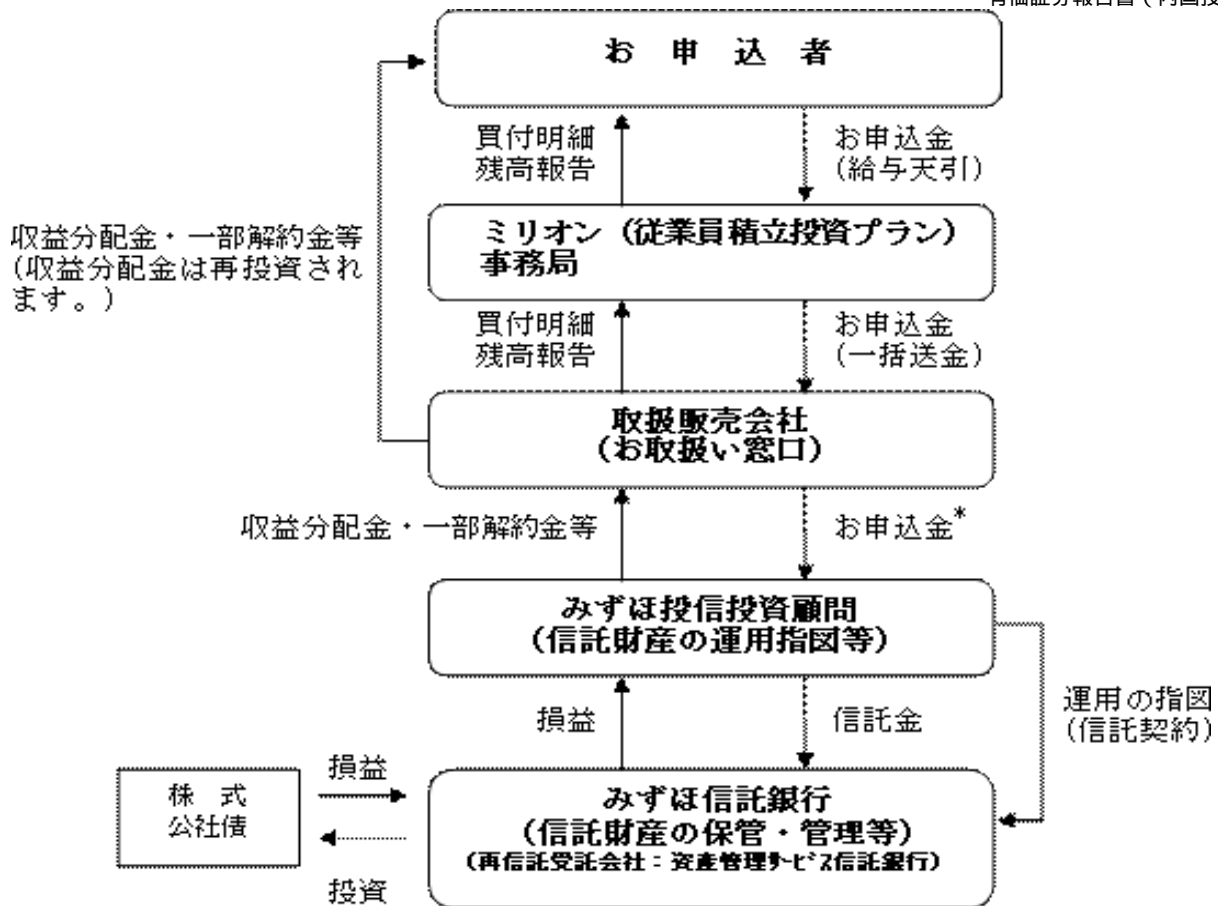
## &lt;各ファンドの概要&gt;

ファンド	主要投資対象	組入比率(程度)	特色
インデックスミリオン	ミリオン・インデックスマザーファンド(マザーファンドは、日経平均株価(日経225)採用銘柄の中から200~225銘柄に、原則として等株数投資を行います。)	100%	日経平均株価(日経225)の動きに連動する投資成果を目指します。
ボンドミックスミリオン	ミリオン・インデックスマザーファンド	50%	日経平均株価(日経225)の動きに連動する投資成果を目指すマザーファンドに投資するとともに、国債・地方債など公社債への投資により、安定性も高めます。
	公社債(国債・地方債など)	50%	

各ファンドにおける上記の組入比率は、株式・公社債市況などにより変更になることがあります。

なお、ミリオンの取得のお申込みは、原則として給与天引き方式となっており、原則として次のような仕組みで運営されます。



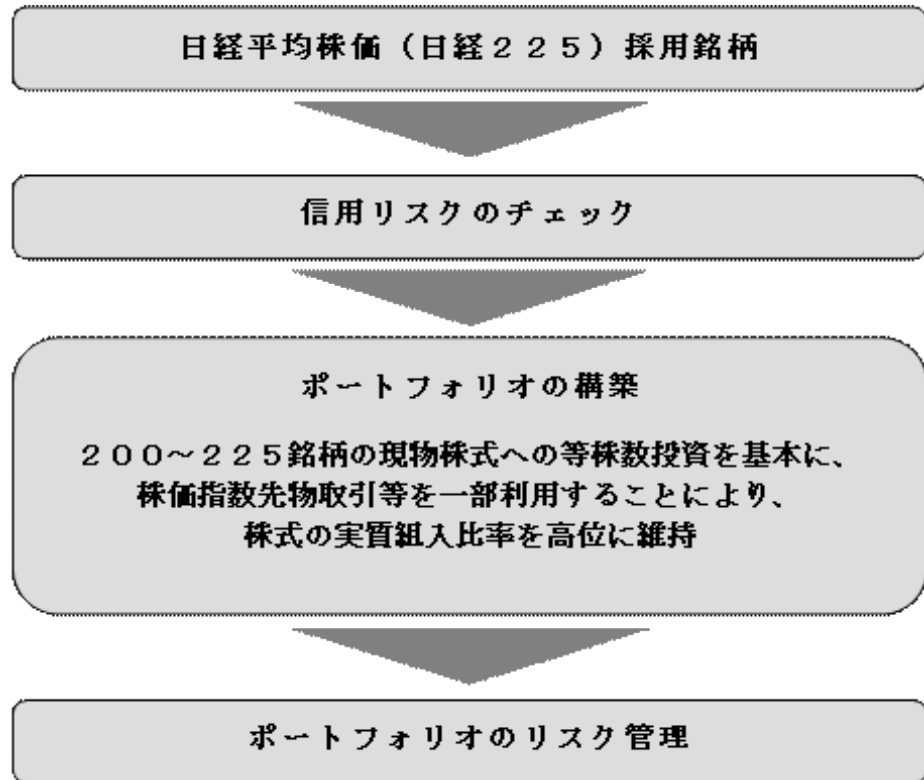


取得のお申込みおよび解約のご請求は、原則として事務局を通じて行います。

- \* お申込金は、委託会社の指定する口座を経由して受託会社の指定するファンド口座（受託会社が再信託している場合は、当該再信託受託会社の指定するファンド口座）に払い込まれます。

#### ファンドの投資プロセス

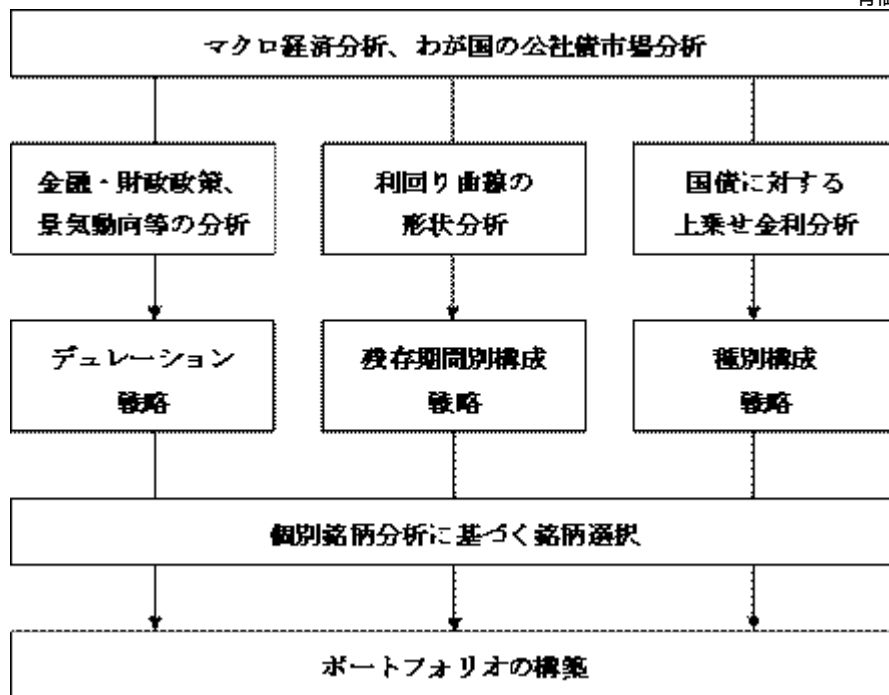
「インデックスミリオン」「ボンドミックスミリオン」の各ファンドは、ミリオン・インデックスマザーファンド受益証券への投資を通じ、以下のプロセスにより株式の投資を行います。



1. 日経平均株価に対する連動性を勘案しつつ、委託会社独自のクレジット・リスク・モデル などを活用して、日経平均株価採用銘柄のうち信用リスクが高いと判断される銘柄を投資対象から除外する場合があります。  
当モデルは、財務データ等に基づく倒産リスク分析を主体とし、企業規模要因などを加味した上で、信用リスクを測定するモデルです。
2. 日経平均株価採用銘柄のうち200~225銘柄に対して、原則として等株数投資を行います。こうした現物株式への等株数投資を基本に、株価指数先物取引等の一部を利用することで、株式の実質組入比率（現物株式 + 株価指数先物取引等）を高位に維持し、日経平均株価との連動性の確保に努めます。
3. 日経平均株価の動きと株式ポートフォリオの値動きの乖離（トラッキングエラー）を日々管理し、修正が必要な場合は速やかにポートフォリオの見直しを実施します。

上記のプロセスは、今後変更される場合があります。

「ボンドミックスミリオン」は、以下のプロセスにより公社債への投資を行います。



1. 「ボンドミックスミリオン」における公社債への投資は、マクロ経済分析会議によるマクロ経済分析、先進国債券分析委員会による公社債市場分析を基に行われます。
2. マクロ経済予測を前提に市場予測等を行い、これに基づきデュレーション戦略(公社債ポートフォリオ全体のデュレーションをどの程度の長さにするか＝金利変動リスクをどの程度とるか)、残存期間別構成戦略(償還までの期間がどの程度の長さの公社債に投資の重点を置くか)、種別構成戦略(国債・政府保証債・地方債・金融債・事業債など、それぞれの種別の公社債にどの程度投資するか)をそれぞれ策定します。
3. 以上のプロセスにより決定された3つの戦略を基に、短・中期債を中心に、「ボンドミックスミリオン」の公社債部分に組入れる銘柄を決定し、公社債ポートフォリオを構築します。個別銘柄の選択にあたっては、割高・割安の分析に加え、信用リスク・流動性リスクを十分に勘案します。

上記のプロセスは、今後変更される場合があります。

## (2) 【投資対象】

### 有価証券の指図範囲

#### 「インデックスミリオン」

委託会社は、信託金を、主としてみずほ投信投資顧問株式会社を委託会社として、みずほ信託銀行株式会社を受託会社として締結されたミリオン・インデックスマザーファンド受益証券、指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）、コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等に、投資することを指図します。ただし、私募により発行された有価証券(コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等を除きます。)に投資することを指図しません。

#### 「ボンドミックスミリオン」

委託会社は、信託金を、主としてみずほ投信投資顧問株式会社を委託会社として、みずほ信託銀行株式会社を受託会社として締結されたミリオン・インデックスマザーファンド受益証券および、次の有価

証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。ただし、私募により発行された有価証券(短期社債等およびコマースシャル・ペーパーを除きます。)に投資することを指図しません。

- 1．国債証券
- 2．地方債証券
- 3．特別の法律により法人が発行する債券
- 4．社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。))の新株引受権証券を除きます。)
- 5．コマースシャル・ペーパー
- 6．外国または外国の者の発行する本邦通貨表示の証券または証書で、1．～5．の証券または証書の性質を有するもの  
なお、1．から4．までの証券および6．の証券を以下「公社債」といいます。
- 7．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)
- 8．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

#### 金融商品の指図範囲

##### 「インデックスミリオン」

委託会社は、信託金を、 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。また、 の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を以下に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

- 1．預金
- 2．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
- 3．コール・ローン
- 4．手形割引市場において売買される手形

##### 「ボンドミックスミリオン」

委託会社は、信託金を、 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。また、 の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を以下に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

- 1．預金
- 2．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
- 3．コール・ローン
- 4．手形割引市場において売買される手形
- 5．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの

#### その他の投資対象

##### 「ボンドミックスミリオン」

## 有価証券先物取引等

委託会社は、有価証券等の価格変動リスクを回避するため、国内において行われる有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。以下同じ。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。以下同じ。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。以下同じ。）、金利にかかる先物取引および金利にかかるオプション取引ならびに外国の市場におけるわが国の有価証券および金利にかかるこれらの取引と類似の取引(以下「有価証券先物取引等」といいます。)を行うことを指図することができます。

### (3) 【運用体制】

#### 意思決定プロセス

1. 運用の意思決定にあたっては、まず「マクロ経済分析会議」において投資判断に先立つマクロ経済環境に関する前提を明確にします。これに基づいて「資産別投資分析委員会」において各資産別の市場見通しを策定し、「投資政策委員会」で各市場の見通しを最終承認します。
  2. 運用担当者は、投資政策委員会で承認された各市場見通しを踏まえて運用に関する基本計画を策定し、運用会議にて審議・決定します。
  3. 運用担当者は、運用会議で決定された基本計画に基づいて具体的な運用計画を策定し、これに基づいてトレーディング部門に発注指図を行います。トレーディング部門は、売買に係る法令・約款および運用ガイドラインなどの社内諸規則の遵守状況をチェックのうえ個別の取引を実行します。
  4. 各ファンドの運用リスク管理状況・運用実績について「運用評価委員会」において審議・評価が行われ、また法令・約款、運用ガイドラインなどの社内諸規則に照らした運用内容のモニタリング結果が「コンプライアンス委員会」において審議されます。
  5. 以上の内部管理およびファンドに係る意思決定については、内部監査部門（平成26年12月末現在3名）が業務執行の適正性・妥当性・効率性等の観点からモニタリングを実施しています。
- なお、上記の組織の体制および会議の名称等については、変更になることがあります。

#### 関係法人に対する管理体制

各ファンドの関係法人である受託会社に対して、委託会社は、内部統制に関する外部監査人による報告書等の定期的な提出を求め、必要に応じて具体的な事項に関するヒアリングを行う等の方法により、適切な業務執行体制にあることを確認しています。

### (4) 【分配方針】

「インデックスミリオン」、「ボンドミックスミリオン」各ファンド共通

#### 収益分配方針

年1回の毎決算時(原則として10月29日。ただし、休業日の場合は翌日以降の最初の営業日)に、原則として次の通り収益分配を行う方針です。

1. 分配対象額の範囲は、利子・配当収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
2. 分配金額は、利子・配当収益を中心に委託会社が基準価額の水準等を勘案して決定します。
3. 収益分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づき再投資します。

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

## 収益分配金の再投資

- 1．収益分配金は、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払い込むことにより、販売会社に交付されます。
- 2．販売会社は、分配金累積投資に関する契約に基づき、受益者に対し、遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付けを行い、当該再投資にかかる売付けにより増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

## (5) 【投資制限】

## a．約款で定める投資制限

## マザーファンドへの投資割合

「インデックスミリオン」(約款 運用の基本方針 運用方法 (3)投資制限)

マザーファンド受益証券への投資割合には制限を設けません。

「ボンドミックスミリオン」(約款 運用の基本方針 運用方法 (3)投資制限および約款第16条)

委託会社は、信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の70以上となる投資の指図をしません。

## 非株式

「インデックスミリオン」(約款 運用の基本方針 運用方法 (2)投資態度)

非株式(株式以外の資産)への実質投資割合は、原則として信託財産総額の50%以下とします。

「ボンドミックスミリオン」(約款 運用の基本方針 運用方法 (2)投資態度)

非株式(株式以外の資産)への実質投資割合は、原則として信託財産総額の75%以下とします。

## 外貨建資産(約款 運用の基本方針 運用方法(3)投資制限)

「インデックスミリオン」、「ボンドミックスミリオン」各ファンド共通

外貨建資産への投資は行いません。

## 公社債

「ボンドミックスミリオン」(約款第18条)

委託会社が投資することを指図する公社債のうち、外国または外国の者の発行する邦貨建公社債およびわが国またはわが国法人が外国において発行する邦貨建公社債については、証券取引所（「証券取引所」とは、金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場（以下「取引所」といいます。）のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行なう市場および当該市場を開設するものをいいます。以下同じ。）に上場(上場予定を含みます。)されている銘柄およびこれに準ずるものとして、社債権者割当により取得する公社債については、この限りではありません。

なお、委託会社である当社といたしましては、当該邦貨建公社債のうち、当ファンドが実際の組入対象としている「証券取引所に上場(上場予定を含みます。)されている銘柄に準ずる非上場の邦貨建公社債の範囲」として、以下のすべての要件を充たした銘柄に限定した運用を行っております。

- 1．日々第三者からの時価情報が入手可能なこと
- 2．転売が禁止されていないこと

## 3. 発行目論見書等による開示が行われていること

## 有価証券先物取引等

## 「ボンドミックスミリオン」(約款第19条)

1. 委託会社は、信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の証券取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとし、外国有価証券市場における現物オプション取引は公社債に限るものとし、
  - a. 先物取引の売建ておよびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする有価証券(以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。)の時価総額の範囲内とします。
  - b. 先物取引の買建ておよびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額(組入ヘッジ対象有価証券を差引いた額)に信託財産が限月までに受取る組入公社債および組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額を限度とし、かつ信託財産が限月までに受取る組入有価証券にかかる利払金および償還金等ならびに(2)投資対象 1. から 4. に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
  - c. コール・オプションおよびプット・オプションの買付けの指図は、1. および 2. で規定する全オプション取引にかかる支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の 5%を上回らない範囲内とします。
2. 委託会社は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるわが国の金利にかかるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。なお、現物オプション取引は預金に限るものとし、
  - a. 先物取引の売建ておよびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額がヘッジの対象とする金利商品(信託財産が1年以内に受取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに(2)投資対象 1. から 4. に掲げる金融商品で運用されているものをいい、以下「ヘッジ対象金利商品」といいます。)の時価総額の範囲内とします。
  - b. 先物取引の買建ておよびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受取る組入有価証券にかかる利払金および償還金等ならびに(2)投資対象 1. から 4. に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
  - c. コール・オプションおよびプット・オプションの買付けの指図は、支払いプレミアム額の合計額が取引時点のヘッジ対象金利商品の時価総額の 5%を上回らない範囲内とし、かつ 1. および 2. で規定する全オプション取引にかかる支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の 5%を上回らない範囲内とします。

資金の借入れ(「インデックスミリオン」約款第21条の2)(「ボンドミックスミリオン」約款第25条の2)

## 「インデックスミリオン」、「ボンドミックスミリオン」各ファンド共通

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を

通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

2. 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とし、かつ借入指図を行なう日における信託財産の純資産総額の10%を上回らない範囲内とします。
3. 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
4. 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

#### デリバティブ取引等

##### 「インデックスミリオン」(約款第17条の1の2)

委託会社は、デリバティブ取引等(この信託財産に属する投資信託証券に係る投資信託において取引されるデリバティブ取引等(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引、選択権付債券売買および商品投資等取引(投資信託及び投資法人に関する法律施行令第3条第10号に規定するものをいう。))を含みます。以下同じ。))について、一般社団法人投資信託協会の規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を原則として超えることとならないよう管理します。

##### 「ボンドミックスミリオン」(約款第18条の2)

委託会社は、デリバティブ取引等(デリバティブ取引とは、金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引、選択権付債券売買および商品投資等取引(投資信託及び投資法人に関する法律施行令第3条第10号に規定するものをいいます。))を含みます。以下「デリバティブ取引等」といいます(ただし、この信託において取引可能なものに限り、以下同じ。))について、一般社団法人投資信託協会の規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えることとなる投資の指図をしません。

#### b. 法令で定める投資制限

デリバティブ取引にかかる投資制限(金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号)

デリバティブ取引は、あらかじめ定めた合理的な方法により算出した、金融商品市場における相場の変動等により発生し得る危険に対応する額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

同一の法人の発行する株式の取得割合(投資信託及び投資法人に関する法律第9条)

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき投資信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって取得することを受託会社に指図しないものとします。

<ご参考> マザーファンドの投資方針

「ミリオン・インデックスマザーファンド」



## 1．運用の基本方針

この投資信託は、株式への投資により、信託財産の長期的な成長に重点を置き、積極的な運用を行います。

## 2．運用方法

### (1) 主要投資対象

わが国の金融商品取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所をいいます。）に上場されている株式のうち総合的な市場動向を反映する日経平均株価(225種・東証)に採用された銘柄を投資対象とします。なお、選定銘柄は、原則として変更しませんが、一定時期に見直すことがあります。

### (2) 投資態度

投資成果を総合的な株価の動きに連動させるため、次のポートフォリオ管理を行います。

日経平均株価採用銘柄の中から200ないし225銘柄に原則として等株数投資を行います。

株式の組入比率は、高位を保ちます。

なお、有価証券等の価格変動リスクを回避するため、国内において行われる有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、金利にかかる先物取引および金利にかかるオプション取引ならびに外国の市場におけるわが国の有価証券指数等先物取引、金利にかかる先物取引および金利にかかるオプション取引と類似の取引を行うことができます。

### (3) 投資制限

株式への投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への投資は行いません。

有価証券先物取引等は約款第15条の範囲で行います。

## 3 【投資リスク】

### (1) 各ファンドにおける主として想定されるリスクと収益性に与える影響度合い

- ・「インデックスミリオン」および「ボンドミックスミリオン」は、株式・公社債などの値動きのある証券等に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。したがって、元金や一定の投資成果が保証されているものではなく、組入れた株式の株価の下落や公社債の値下がり（「インデックスミリオン」は、日経平均株価（日経225）の動きに連動する投資成果を目指しており、当該株価の下落を含みます。）等の影響による基準価額の下落により、損失を被ることがあります。
- ・運用により信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者の皆様に帰属します。
- ・投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ・投資信託は預貯金とは異なります。
- ・各ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

「インデックスミリオン」および「ボンドミックスミリオン」において主として想定されるリスクは以下の通りですが、基準価額の変動要因はこれらに限定されるものではありません。なお、以下のリスクのうち、株式投資にかかるリスクは、マザーファンドを通じて各ファンドが行う有価証券等への投資により発生します。

### 株価変動リスク

株価変動リスクとは、株式市場および投資先となっている企業の株価が下落するリスクをいいます。各ファンドが投資する企業の株価が下落した場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、各ファンドが投資する企業が業績悪化や倒産等に陥った場合には、当該企業の株価が大きく下落することや無くなることもあり、各ファンドの基準価額に大きな影響を及ぼすことがあります。なお、「インデックスミリオン」では、株式と株価指数先物取引等の合計の実質組入比率を高位に維持するため、株式市場の動向により基準価額は大きく変動します。

### 金利変動リスク

金利変動リスクとは、金利変動により公社債の価格が下落するリスクをいいます。一般に金利が上昇した場合には、既に発行されて流通している公社債の価格は下落します。金利上昇は、「ボンドミックスミリオン」が投資する公社債の価格に影響を及ぼし、「ボンドミックスミリオン」の基準価額を下落させる要因となります。また、金利変動により株式市場と公社債市場の間で資金シフトが起こる場合があり、その場合、金利変動の影響は株式市場にも及びます。

### 信用リスク

信用リスクとは、公社債等の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利息や償還金をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなる(債務不履行)リスクをいいます。一般に債務不履行が生じた場合、またはその可能性が高まった場合には、当該発行体が発行する公社債および短期金融商品(コマーシャル・ペーパー等)の価格は下落します。また、当該発行体が企業の場合には、一般にその企業の株価が下落する要因となります。各ファンドが投資する株式の発行企業や公社債等の発行体がこうした状況に陥った場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となる可能性があります。

### 資産配分リスク

資産配分リスクとは、複数資産への投資(資産配分)を行った場合に、投資成果の悪い資産への配分が大きかったため、投資全体の成果も悪くしてしまうリスクをいいます。一般に、投資に際して資産配分を行う場合には、そのうちの1資産の価値変動が投資全体の成果に及ぼす影響度合いを小さくする効果が期待されますが、その場合にも、それぞれの資産の価値変動は、当該資産への資産配分の比率に応じて、投資全体の成果に影響を及ぼします。「ボンドミックスミリオン」では、わが国の株式・公社債に資産配分を行います。配分比率が高い資産の価値が下落した場合や、複数の資産の価値が同時に下落した場合には、当ファンドの基準価額がより大きく下落する可能性があります。

### 流動性リスク

流動性リスクとは、有価証券を売却(または購入)しようとする際に、需要(または供給)がないため、有価証券を希望する時期に、希望する価格で売却(または購入)することができなくなるリスクをいいます。一般に規模が小さい市場での売買や、取引量の少ない有価証券の売買にあたっては、流動性リスクへの留意が特に必要とされます。また、一般に市場を取り巻く外部環境の急変があった場合には、市場実勢価格での売買ができなくなる可能性が高まります。各ファンドが投資する株式・公社債等の流動性が損なわれた場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となる可能性があります。

<その他>

- ・「インデックスミリオン」および「ボンドミックスミリオン」における株式への投資は、ファミリーファンド方式で運用を行います。当該方式は、運用の効率化に資するものですが、一方で、各ファンドが主要投資対象とするマザーファンドに対し、他のベビーファンドにより多額の追加設定・一部解約等がなされた場合には、マザーファンドにおける売買ならびに組入比率の変化等により、各ファンドの基準価額や運用が影響を受ける場合があります。
- ・各ファンドは、証券取引所における取引の停止等があるときには、一部解約の実行の請求の受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受け付けを取り消すことがあります。

#### <その他の留意点>

「インデックスミリオン」および「ボンドミックスミリオン」における株式への投資は、日経平均株価(日経225)の動きと連動する投資成果を目指しておりますが、追加設定・一部解約による運用資金の変動、株価指数の構成銘柄の一部を組入れない場合の影響、銘柄ごとの組入比率が株価指数における構成比率と異なる場合の影響、株価指数先物取引を利用する場合の株価指数と株価指数先物の値動きの差による影響、株価指数先物取引の最低取引単位の存在、売買約定価格と取引所終値との差による影響、組入銘柄の配当による影響、売買執行に要する費用や信託報酬等が信託財産から支払われることの影響などにより、「インデックスミリオン」の基準価額の騰落率、もしくは「ボンドミックスミリオン」の株式ポートフォリオの騰落率と、同じ期間における日経平均株価(日経225)の騰落率との間に、乖離が生じる場合があります。

#### <収益分配金に関する留意点>

- ・投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- ・投資家(受益者)のファンドの取得価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド取得後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

#### (2) リスク管理体制

コンプライアンス・リスク管理部門は、運用リスクを含めたリスクのチェック・管理を行うとともに、運用実績の分析・評価を実施し、必要に応じて提言等を行います。

また同部門は、法令・諸規則、約款の投資制限等の遵守状況を把握・管理し、必要に応じて関連部門へ指導を行います。

トレーディング部門は、売買執行および発注に伴う諸規則の遵守状況のチェックを行います。

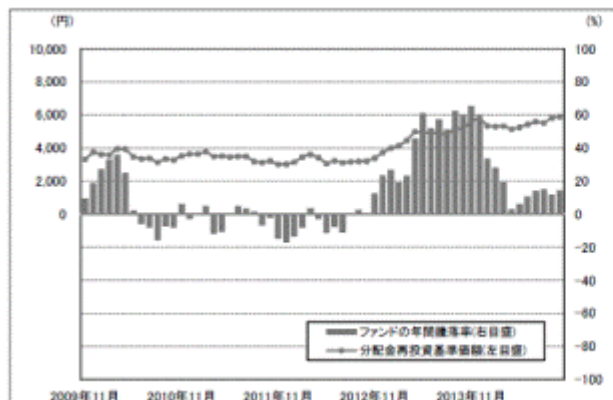
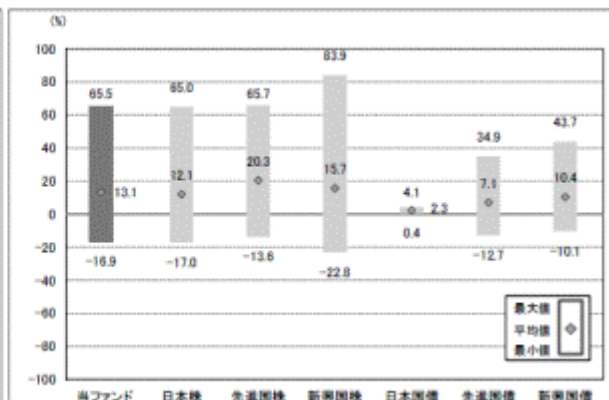
これらのリスク管理の結果は、リスク管理に関する委員会等を通じて経営に報告されます。

上記のリスク管理体制および組織名称等については、変更になることがあります。

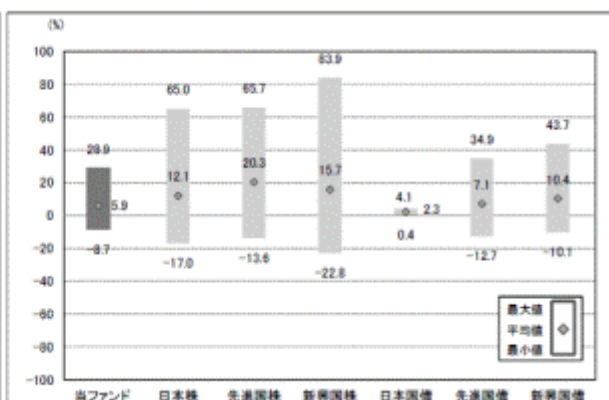
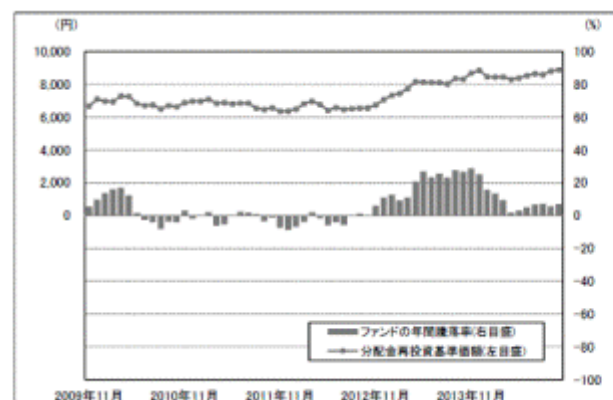
(参考情報) ファンドの値動き・代表的資産クラスとの年間騰落率の比較(2009年11月~2014年10月)

各ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準  
価額の推移

## インデックスミリオン

各ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率  
の比較

## ボンドミックスミリオン



分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものと  
して計算したもので、1999年1月4日の各ファンドの基準価額（イン  
デックスミリオン 5,040円、ボンドミックスミリオン 8,012円）に  
合わせて指数化しています。（以下同じ。）  
年間騰落率（各月末時点について1年前と比較したものは、分配  
金再投資基準価額をもとに計算していますので、基準価額をもとに  
計算した騰落率とは異なる場合があります。

上記は、各ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるよ  
うに、2009年11月～2014年10月の5年間における年間騰落率（各月  
末時点について1年前と比較したもの）の平均・最大・最小を表示し  
たものです。

各ファンドの年間騰落率は、分配金再投資基準価額をもとに計算し  
ていますので、基準価額をもとに計算した騰落率とは異なる場合に  
あります。

代表的な資産クラスは比較対象として記載しているため、各ファンド  
の投資対象とは限りません。

## \* 各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）配当込み

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み・円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み・円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（ヘッジなし・円ベース）

株式の指数は、配当を考慮したものです。また、海外（先進国・新興国）の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算してあり  
ます。

「東証株価指数（TOPIX）」とは、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会  
社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券  
取引所が有しています。

「MSCIコクサイ・インデックス」とは、MSCIインク（以下、MSCI）が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の  
株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の  
内容を変更する権利を有しています。

「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」とは、MSCIが開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合  
成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および  
公表を停止する権利を有しています。

「NOMURA-BPI国債」とは、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指  
数の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証す  
るものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

「シティ世界国債インデックス（除く日本）」とは、Citigroup Index LLCが開発した債券指数で、日本を除く世界主要国の国債で構成されて  
いる時価総額加重平均指数です。同指数は、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など同指数に関するすべ  
ての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。

「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」とは、JPモルガン・セキュリティーズ・インクが公表している新興国の現地通貨建ての  
国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はJPモルガン・セキュリティーズ・イ  
ンクに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

## 4 【手数料等及び税金】

## (1) 【申込手数料】

ありません。

## (2) 【換金（解約）手数料】

ありません。

## (3) 【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年1.674%（税抜 1.55%）の率を乗じて得た額とします。

信託報酬の配分（税抜）は、次の通りとします。

委託会社	販売会社	受託会社
0.37%	1.1%	0.08%

信託報酬は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁するものとします。なお、信託報酬にかかる消費税ならびに地方消費税に相当する金額（8%、以下「消費税等相当額」といいます。）を、信託報酬支弁の時に信託財産中から支弁します。

## &lt; 信託報酬等を対価とする役務の内容 &gt;

委託会社	信託財産の運用、目論見書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
販売会社	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
受託会社	信託財産の管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価

## (4) 【その他の手数料等】

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、信託財産の財務諸表の監査に要する費用および当該費用にかかる消費税等相当額ならびに受託会社の立替えた立替金の利息および資金借入れを行った際の当該借入金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。なお、信託財産の財務諸表の監査に要する費用は、当該費用にかかる消費税等相当額とともに毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

各ファンドの組入る有価証券の売買時の売買委託手数料、先物・オプション取引等に要する費用およびこれら手数料ならびに費用にかかる消費税等相当額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁するものとします。

上記、 の手数料等（借入金の利息および財務諸表の監査に要する費用を除きます。）については、各ファンドが投資対象とするマザーファンドにおいて発生する場合、マザーファンドの信託財産中から支弁されます。これらはマザーファンドの基準価額に反映されるため、結果として各ファンドの受益者が間接的に負担することとなります。

## &lt; 主要なその他の手数料等を対価とする役務の内容 &gt;

信託財産に関する租税	有価証券の取引の都度発生する有価証券取引税、有価証券の受取配当金に係る税、有価証券の譲渡益に係る税等
------------	--

信託事務の処理に要する諸費用	事務処理に係る諸経費
信託財産の財務諸表の監査に要する費用	監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
組入有価証券の売買時の売買委託手数料	有価証券等の売買の際、金融商品取引業者等に支払う手数料

#### (5) 【課税上の取扱い】

各ファンドは、課税上は株式投資信託として取り扱われます。

個別元本について

- 1 追加型株式投資信託については、受益者毎の信託時の受益権の価額等(申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含みません。)が当該受益者の元本(個別元本)にあたります。
- 2 受益者が同一ファンドの受益権を複数回に分けて取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。
- 3 ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については、各販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数の支店等で同一ファンドを取得する場合は当該支店等毎に、個別元本の算出が行われる場合があります。
- 4 受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。(「元本払戻金(特別分配金)」については、下記の「収益分配時における課税上の取扱いについて」を参照ください。)

収益分配時における課税上の取扱いについて

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、「普通分配金」と「元本払戻金(特別分配金)」は、以下のようになります。

- 1 当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。
- 2 当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

課税の取扱いについて(個人の受益者の場合)

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、配当所得として、以下の税率による源泉徴収が行われ、原則として確定申告の必要はありません。なお、確定申告を行うことにより、総合課税(配当控除の適用あり)や申告分離課税も選択できます。

一部解約時および償還時ならびに買取請求による換金時の差益(解約の価額および償還価額ならびに買取の価額から取得費用(申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額を含みます。)を控除した利益)については、譲渡益として課税対象(譲渡所得等)となり、以下の税率によ

る申告分離課税が適用されます。原則として確定申告が必要ですが、特定口座（源泉徴収口座）をご利用の場合には、源泉徴収され申告不要制度が適用されます。

一部解約時および償還時ならびに買取請求による換金時に損失（譲渡損）が生じた場合には、確定申告することで、他の上場株式等（上場株式、上場投資信託（ETF）、上場不動産投資信託（REIT）および公募株式投資信託など。以下同じ。）の譲渡益および上場株式等の配当所得の金額（申告分離課税を選択したものに限り、以下同じ。）との損益通算ならびに3年間の繰越控除の対象とすることができます。また、特定口座（源泉徴収口座）をご利用の場合には、その口座内において損益通算を行います。この場合、確定申告は不要です。

\* 平成28年1月1日から、上記の損益通算および3年間の繰越控除の対象範囲に、特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）の利子所得等および譲渡所得等が追加される予定です。

適用期間	所得税	復興特別所得税	地方税	合計
平成26年1月1日から 平成49年12月31日まで	15%	0.315%	5%	20.315%
平成50年1月1日から	15%	-	5%	20%

（注）所得税については、平成49年12月31日まで、別途所得税の額に対し2.1%の金額が復興特別所得税として徴収されます。

少額投資非課税制度「愛称:NISA（ニーサ）」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、平成26年1月1日より開始された非課税制度です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。なお、同非課税口座内で少額上場株式等に係る譲渡損失が生じた場合には、課税上譲渡損失はないものとみなされ、他の口座の上場株式等の譲渡益および上場株式等の配当所得の金額との損益通算を行うことはできませんので、ご注意ください。

各ファンドの非課税口座の取扱いは販売会社により異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

上記の内容は平成26年10月末日現在のものですので、税法が改正された場合等には、変更になる場合があります。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家に確認されることをお勧めいたします。買取請求制による換金の詳細については、販売会社にお問い合わせください。

## 5 【運用状況】

## (1) 【投資状況】（平成26年10月31日現在）

## インデックスミリオン

資産の種類		国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
有価証券	親投資信託受益証券	日本	4,128,885,444	99.93
その他の資産	現金・預金・その他の資産 (負債控除後)		2,602,951	0.06
合 計 (純資産総額)			4,131,488,395	100.00

(注1) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。(以下同じ。)

(注2) 小数点第3位切捨て。端数調整は行っておりません。(以下同じ。)

## ボンドミックスミリオン

資産の種類		国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
有価証券	国債証券	日本	230,864,890	28.26
	特殊債券	日本	150,960,200	18.48
	親投資信託受益証券	日本	424,388,197	51.96
その他の資産	現金・預金・その他の資産 (負債控除後)		10,534,813	1.28
合 計 (純資産総額)			816,748,100	100.00

## (参考) ミリオン・インデックスマザーファンド

資産の種類		国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
有価証券	株式	日本	4,179,629,900	91.74
その他の資産	現金・預金・その他の資産 (負債控除後)		375,975,065	8.25
合 計 (純資産総額)			4,555,604,965	100.00

## その他の資産の投資状況

投資資産の種類	時価合計(円)	投資比率(%)
株価指数先物取引 (買建)	362,780,000	7.96

(注) 株価指数先物取引の時価の算定方法については、取引所の発表する計算日の清算値段により評価しております。

## (2) 【投資資産】（平成26年10月31日現在）

## 【投資有価証券の主要銘柄】

## インデックスミリオン

順位	銘柄名	種類	国/地域	数量 (口数)	帳簿価額 単 価 (円)	帳簿価額 金 額 (円)	評価額 単 価 (円)	評価額 金 額 (円)	投資 比率 (%)
1	ミリオン・インデックスマザーファンド	親投資信託受益証券	日本	4,230,415,414	0.924	3,913,134,257	0.976	4,128,885,444	99.93

## ボンドミックスミリオン



順位	銘柄名	種類	国/地域	利率(%)	償還期限	数量 (券面総額/ 口数)	帳簿価額 単 価 (円)	帳簿価額 金 額 (円)	評価額 単 価 (円)	評価額 金 額 (円)	投資 比率 (%)
1	ミリオン・インデックスマ ザーファンド	親投資 信託受 益証券	日本			434,823,973	0.925	402,212,175	0.976	424,388,197	51.96
2	い第737号農林債	特殊債 券	日本	0.50	2016年 10月27 日	100,000,000	100.73	100,736,000	100.69	100,694,000	12.32
3	第107回利付国債(5 年)	国債証 券	日本	0.20	2017年 12月20 日	43,000,000	100.50	43,215,430	100.46	43,200,810	5.28
4	第89回利付国債(5年)	国債証 券	日本	0.40	2015年6 月20日	32,000,000	100.24	32,079,040	100.23	32,075,520	3.92
5	第106回利付国債(5 年)	国債証 券	日本	0.20	2017年9 月20日	24,000,000	100.47	24,114,000	100.44	24,106,560	2.95
6	第296回利付国債(10 年)	国債証 券	日本	1.50	2018年9 月20日	20,000,000	105.54	21,108,800	105.48	21,096,800	2.58
7	第275回信金中金債(5 年)	特殊債 券	日本	0.30	2017年 10月27 日	20,000,000	100.53	20,107,400	100.48	20,097,800	2.46
8	第110回利付国債(5 年)	国債証 券	日本	0.30	2018年3 月20日	15,000,000	100.86	15,129,150	100.82	15,123,600	1.85
9	第95回利付国債(5年)	国債証 券	日本	0.60	2016年3 月20日	15,000,000	100.80	15,121,350	100.78	15,118,050	1.85
10	第305回利付国債(10 年)	国債証 券	日本	1.30	2019年 12月20 日	14,000,000	106.02	14,843,360	105.95	14,833,560	1.81
11	第103回利付国債(5 年)	国債証 券	日本	0.30	2017年3 月20日	14,000,000	100.65	14,091,700	100.62	14,087,780	1.72
12	い第734号商工債	特殊債 券	日本	0.55	2016年7 月27日	10,000,000	100.77	10,077,300	100.73	10,073,600	1.23
13	い第733号商工債	特殊債 券	日本	0.55	2016年6 月27日	10,000,000	100.73	10,073,700	100.70	10,070,100	1.23
14	第102回利付国債(5 年)	国債証 券	日本	0.30	2016年 12月20 日	10,000,000	100.59	10,059,800	100.57	10,057,200	1.23
15	第98回利付国債(5年)	国債証 券	日本	0.30	2016年6 月20日	10,000,000	100.46	10,046,600	100.44	10,044,500	1.22
16	い第718号商工債	特殊債 券	日本	0.65	2015年3 月27日	10,000,000	100.25	10,025,700	100.24	10,024,700	1.22
17	第117回利付国債(5 年)	国債証 券	日本	0.20	2019年3 月20日	9,000,000	100.43	9,039,240	100.41	9,037,170	1.10
18	第120回利付国債(5 年)	国債証 券	日本	0.20	2019年9 月20日	9,000,000	100.38	9,034,290	100.36	9,032,670	1.10
19	第93回利付国債(5年)	国債証 券	日本	0.50	2015年 12月20 日	8,000,000	100.55	8,044,560	100.53	8,043,120	0.98
20	第109回利付国債(5 年)	国債証 券	日本	0.10	2018年3 月20日	5,000,000	100.18	5,009,250	100.15	5,007,550	0.61

## (参考) ミリオン・インデックスマザーファンド(評価額上位30銘柄)

順位	銘柄名	種類	国/地域	業種	数量 (株式数)	帳簿価額 単 価 (円)	帳簿価額 金 額 (円)	評価額 単 価 (円)	評価額 金 額 (円)	投資 比率 (%)
1	ファーストリテイリング	株式	日本	小売業	10,000	36,940.00	369,400,000	40,365.00	403,650,000	8.86
2	ソフトバンク	株式	日本	情報・通信業	30,000	7,509.00	225,270,000	7,939.00	238,170,000	5.22
3	ファナック	株式	日本	電気機器	10,000	18,050.00	180,500,000	19,120.00	191,200,000	4.19
4	KDDI	株式	日本	情報・通信業	20,000	6,899.00	137,980,000	7,225.00	144,500,000	3.17
5	京セラ	株式	日本	電気機器	20,000	4,678.00	93,560,000	5,045.00	100,900,000	2.21
6	アステラス製薬	株式	日本	医薬品	50,000	1,644.50	82,225,000	1,699.00	84,950,000	1.86
7	信越化学工業	株式	日本	化学	10,000	6,706.00	67,060,000	7,044.00	70,440,000	1.54

8	本田技研工業	株式	日本	輸送用機器	20,000	3,303.50	66,070,000	3,479.00	69,580,000	1.52
9	東京エレクトロン	株式	日本	電気機器	10,000	6,625.00	66,250,000	6,950.00	69,500,000	1.52
10	ダイキン工業	株式	日本	機械	10,000	6,433.00	64,330,000	6,814.00	68,140,000	1.49
11	セコム	株式	日本	サービス業	10,000	6,264.00	62,640,000	6,751.00	67,510,000	1.48
12	トヨタ自動車	株式	日本	輸送用機器	10,000	6,262.00	62,620,000	6,498.00	64,980,000	1.42
13	T D K	株式	日本	電気機器	10,000	5,950.00	59,500,000	6,160.00	61,600,000	1.35
14	日東電工	株式	日本	化学	10,000	5,745.00	57,450,000	5,953.00	59,530,000	1.30
15	テルモ	株式	日本	精密機器	20,000	2,536.00	50,720,000	2,732.00	54,640,000	1.19
16	キヤノン	株式	日本	電気機器	15,000	3,212.50	48,187,500	3,389.00	50,835,000	1.11
17	デンソー	株式	日本	輸送用機器	10,000	4,940.50	49,405,000	5,009.00	50,090,000	1.09
18	武田薬品工業	株式	日本	医薬品	10,000	4,628.00	46,280,000	4,804.50	48,045,000	1.05
19	花王	株式	日本	化学	10,000	4,096.50	40,965,000	4,304.50	43,045,000	0.94
20	エーザイ	株式	日本	医薬品	10,000	4,278.00	42,780,000	4,301.00	43,010,000	0.94
21	セブン&アイ・ホールディングス	株式	日本	小売業	10,000	4,125.00	41,250,000	4,281.00	42,810,000	0.93
22	エヌ・ティ・ティ・データ	株式	日本	情報・通信業	10,000	4,020.00	40,200,000	4,265.00	42,650,000	0.93
23	住友不動産	株式	日本	不動産業	10,000	3,585.50	35,855,000	4,094.50	40,945,000	0.89
24	電通	株式	日本	サービス業	10,000	3,865.00	38,650,000	4,045.00	40,450,000	0.88
25	オリンパス	株式	日本	精密機器	10,000	3,770.00	37,700,000	3,915.00	39,150,000	0.85
26	日本たばこ産業	株式	日本	食料品	10,000	3,621.50	36,215,000	3,766.00	37,660,000	0.82
27	富士フイルムホールディングス	株式	日本	化学	10,000	3,647.50	36,475,000	3,687.00	36,870,000	0.80
28	トレンドマイクロ	株式	日本	情報・通信業	10,000	3,530.00	35,300,000	3,675.00	36,750,000	0.80
29	スズキ	株式	日本	輸送用機器	10,000	3,338.00	33,380,000	3,653.50	36,535,000	0.80
30	ブリヂストン	株式	日本	ゴム製品	10,000	3,535.50	35,355,000	3,651.50	36,515,000	0.80

## 投資有価証券の種類別及び業種別投資比率

## インデックスミリオン

国内 / 外国	種類	投資比率 (%)
国内	親投資信託受益証券	99.93
合 計		99.93

## ボンドミックスミリオン

国内 / 外国	種類	投資比率 (%)
国内	国債証券	28.26
	特殊債券	18.48
	親投資信託受益証券	51.96
合 計		98.71

## (参考) ミリオン・インデックスマザーファンド

国内 / 外国	種類	業種	投資比率 (%)
国内	株式	水産・農林業	0.10
		鉱業	0.12
		建設業	2.63
		食料品	4.31
		繊維製品	0.46

	パルプ・紙	0.22
	化学	6.92
	医薬品	6.16
	石油・石炭製品	0.31
	ゴム製品	1.01
	ガラス・土石製品	1.39
	鉄鋼	0.24
	非鉄金属	1.30
	金属製品	0.32
	機械	4.75
	電気機器	15.82
	輸送用機器	6.65
	精密機器	2.54
	その他製品	0.73
	電気・ガス業	0.28
	陸運業	2.27
	海運業	0.19
	空運業	0.05
	倉庫・運輸関連業	0.36
	情報・通信業	10.92
	卸売業	2.15
	小売業	11.06
	銀行業	1.21
	証券、商品先物取引業	0.56
	保険業	0.86
	その他金融業	0.50
	不動産業	2.73
	サービス業	2.47
	合 計	91.74

## 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(参考) ミリオン・インデックスマザーファンド

種類	取引所等	資産名	建別	数量	帳簿価額 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)

株価指数先物取引	大阪取引所	日経平均株価指数先物	買建	22	342,630,540	362,780,000	7.96
----------	-------	------------	----	----	-------------	-------------	------

(注) 時価の算定方法

取引所の発表する計算日の清算値段により評価しています。

### (3) 【運用実績】

#### 【純資産の推移】

平成26年10月31日及び同日前1年以内における各月末ならびに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

#### インデックスミリオン

期	年月日	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
		（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
18期	平成17年10月31日	4,622	4,660	0.4818	0.4858
19期	平成18年10月30日	5,100	5,145	0.5704	0.5754
20期	平成19年10月29日	4,850	4,880	0.5761	0.5796
21期	平成20年10月29日	2,486	2,486	0.2842	0.2842
22期	平成21年10月29日	3,032	3,073	0.3366	0.3411
23期	平成22年10月29日	2,883	2,883	0.3133	0.3133
24期	平成23年10月31日	2,810	2,810	0.3070	0.3070
25期	平成24年10月29日	2,827	2,827	0.3069	0.3069
26期	平成25年10月29日	4,086	4,111	0.4881	0.4911
27期	平成26年10月29日	3,894	3,920	0.5263	0.5298
	平成25年10月末日	4,109		0.4880	
	平成25年11月末日	4,351		0.5333	
	平成25年12月末日	4,269		0.5540	
	平成26年1月末日	3,879		0.5063	
	平成26年2月末日	3,840		0.5039	
	平成26年3月末日	3,853		0.5061	
	平成26年4月末日	3,714		0.4875	
	平成26年5月末日	3,781		0.4984	
	平成26年6月末日	3,901		0.5161	
	平成26年7月末日	3,992		0.5309	
	平成26年8月末日	3,920		0.5239	
	平成26年9月末日	4,075		0.5517	
	平成26年10月31日	4,131		0.5552	

(注) 表中の末日とは当該月の最終営業日を指します。(以下同じ。)

#### ボンドミックスミリオン

期	年月日	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
		（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
18期	平成17年10月31日	1,081	1,092	0.7665	0.7740
19期	平成18年10月30日	1,103	1,112	0.8302	0.8372

20期	平成19年10月29日	1,007	1,011	0.8344	0.8374
21期	平成20年10月29日	726	726	0.5962	0.5962
22期	平成21年10月29日	828	837	0.6544	0.6614
23期	平成22年10月29日	804	804	0.6318	0.6318
24期	平成23年10月31日	799	799	0.6256	0.6256
25期	平成24年10月29日	782	782	0.6246	0.6246
26期	平成25年10月29日	864	869	0.7864	0.7914
27期	平成26年10月29日	791	795	0.8147	0.8182
	平成25年10月末日	869		0.7864	
	平成25年11月末日	892		0.8223	
	平成25年12月末日	848		0.8376	
	平成26年1月末日	810		0.8007	
	平成26年2月末日	809		0.7990	
	平成26年3月末日	809		0.8004	
	平成26年4月末日	795		0.7855	
	平成26年5月末日	801		0.7939	
	平成26年6月末日	806		0.8077	
	平成26年7月末日	814		0.8189	
	平成26年8月末日	808		0.8131	
	平成26年9月末日	813		0.8343	
	平成26年10月31日	816		0.8372	

## 【分配の推移】

## インデックスミリオン

期	1口当たりの分配金（円）
18期	0.0040
19期	0.0050
20期	0.0035
21期	0.0000
22期	0.0045
23期	0.0000
24期	0.0000
25期	0.0000
26期	0.0030
27期	0.0035

## ボンドミックスミリオン

期	1口当たりの分配金（円）
18期	0.0075

19期	0.0070
20期	0.0030
21期	0.0000
22期	0.0070
23期	0.0000
24期	0.0000
25期	0.0000
26期	0.0050
27期	0.0035

## 【収益率の推移】

## インデックスミリオン

期	収益率（％）
18期	25.72
19期	19.43
20期	1.61
21期	50.67
22期	20.02
23期	6.92
24期	2.01
25期	0.03
26期	60.02
27期	8.54

（注1）収益率は期間騰落率。（以下同じ。）

（注2）小数点第3位四捨五入。（以下同じ。）

## ボンドミックスミリオン

期	収益率（％）
18期	11.58
19期	9.22
20期	0.87
21期	28.55
22期	10.94
23期	3.45
24期	0.98
25期	0.16
26期	26.71
27期	4.04

## (4) 【設定及び解約の実績】

下記決算期中の設定及び解約の実績及び当該決算期末の発行済み口数は次の通りです。

## インデックスミリオン

期	設定口数（口）	解約口数（口）	発行済み口数（口）
18期	919,393,173	1,359,190,789	9,592,974,458
19期	861,459,781	1,511,973,543	8,942,460,696
20期	1,027,247,836	1,549,328,221	8,420,380,311
21期	968,580,659	640,863,093	8,748,097,877
22期	1,238,622,828	976,976,912	9,009,743,793
23期	865,175,039	673,118,630	9,201,800,202
24期	621,065,614	670,840,033	9,152,025,783
25期	687,897,110	626,426,008	9,213,496,885
26期	937,852,718	1,778,421,069	8,372,928,534
27期	627,876,038	1,601,213,299	7,399,591,273

## ボンドミックスミリオン

期	設定口数（口）	解約口数（口）	発行済み口数（口）
18期	158,557,609	248,147,574	1,411,223,818
19期	164,390,203	246,791,678	1,328,822,343
20期	130,226,617	251,246,506	1,207,802,454
21期	131,298,910	120,728,053	1,218,373,311
22期	125,879,168	77,545,799	1,266,706,680
23期	107,807,108	101,529,120	1,272,984,668
24期	83,331,109	78,903,709	1,277,412,068
25期	72,777,169	96,975,709	1,253,213,528
26期	52,689,683	207,220,509	1,098,682,702
27期	48,403,011	175,025,001	972,060,712

< 参考情報 >

## 《インデックスミリオン》

(2014年10月31日現在)

## 基準価額・純資産の推移

(1万口当たり)



## 分配の推移

(1万口当たり、税引前)

2014年10月	35円
2013年10月	30円
2012年10月	0円
2011年10月	0円
2010年10月	0円
設定来累計	340円
設定来: 1987年10月30日以降	

## 主要な資産の状況

※各比率は実質的な組入比率です。組入比率は純資産総額に対する比率を表示(小数点第二位四捨五入)しています。

## ＜資産の組入比率＞

資産の種類	国内/外国	比率(%)
株式	国内	91.7
現金・預金・その他の資産		8.3
合計		100.0

(その他の資産の投資状況)

株価指数先物取引(買建) 8.0%

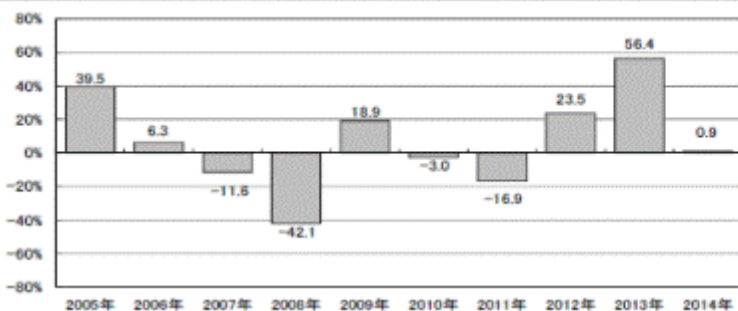
## ＜組入上位10業種＞

順位	業種	比率(%)
1	電気機器	15.8
2	小売業	11.1
3	情報・通信業	10.9
4	化学	6.9
5	輸送用機器	6.7
6	医薬品	6.2
7	機械	4.8
8	食料品	4.3
9	不動産業	2.7
10	建設業	2.6

## ＜組入上位10銘柄＞ 組入銘柄数223銘柄

順位	銘柄名	業種	比率(%)
1	ファーストリテイリング	小売業	8.9
2	ソフトバンク	情報・通信業	5.2
3	ファナック	電気機器	4.2
4	KDDI	情報・通信業	3.2
5	京セラ	電気機器	2.2
6	アステラス製薬	医薬品	1.9
7	信越化学工業	化学	1.5
8	本田技研工業	輸送用機器	1.5
9	東京エレクトロン	電気機器	1.5
10	ダイキン工業	機械	1.5

## 年間収益率の推移(暦年ベース)

※年間収益率は、分配金再投資基準価額をもとに計算したものです。  
※2014年は、1月から10月末までの収益率を表示しています。

当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆、保証するものではありません。

運用実績については、別途開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧することができます。



## 《ボンドミックスミリオン》

(2014年10月31日現在)

## 基準価額・純資産の推移

(1万口当たり)

基準価額	8,372円	純資産総額	8.17億円
------	--------	-------	--------



※基準価額および分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の値です。(以下同じ。)  
 ※分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものと計算したもので、1999年1月4日の当ファンドの基準価額(8,012円)に合わせて指数化しています。(以下同じ。)

## 分配の推移

(1万口当たり、税引前)

2014年10月	35円
2013年10月	50円
2012年10月	0円
2011年10月	0円
2010年10月	0円
設定来累計	505円

設定来：1987年10月30日以降

## 主要な資産の状況

※各比率は実質的な組入比率を含みます。組入比率は純資産総額に対する比率を表示(小数点第二位四捨五入)しています。

## ＜資産の組入比率＞

資産の種類	国内/外国	比率(%)
株式	国内	47.7
債券	国内	46.7
現金・預金・その他の資産		5.6
合計		100.0

(その他の資産の投資状況)

株価指数先物取引(買建) 4.1%

## ＜株式組入上位10業種＞

順位	業種	比率(%)
1	電気機器	8.2
2	小売業	5.8
3	情報・通信業	5.7
4	化学	3.6
5	輸送用機器	3.5
6	医薬品	3.2
7	機械	2.5
8	食料品	2.2
9	不動産業	1.4
10	建設業	1.4

## ＜債券種類別組入比率＞

種類(種別)	比率(%)
国債証券	28.3
特殊債券	18.5

## ＜資産別組入上位5銘柄＞

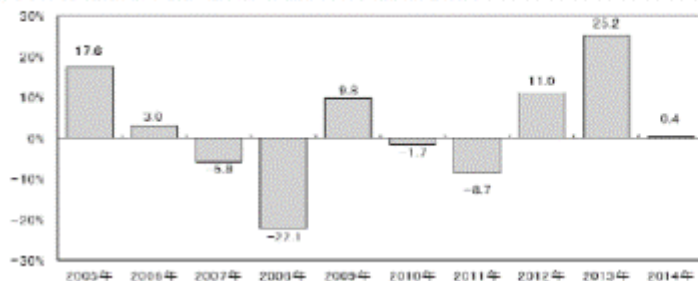
【株式】(組入銘柄数223銘柄)

順位	銘柄名	業種	比率(%)
1	ファーストリテイリング	小売業	4.6
2	ソフトバンク	情報・通信業	2.7
3	ファナック	電気機器	2.2
4	KDDI	情報・通信業	1.6
5	京セラ	電気機器	1.2

【債券】(組入銘柄数19銘柄)

順位	銘柄名	種類(種別)	利率(%)	償還日	比率(%)
1	い第737号農林債	特殊債券	0.5	2016年10月27日	12.3
2	第107回利付国債(5年)	国債証券	0.2	2017年12月20日	5.3
3	第89回利付国債(5年)	国債証券	0.4	2015年6月20日	3.9
4	第106回利付国債(5年)	国債証券	0.2	2017年9月20日	3.0
5	第296回利付国債(10年)	国債証券	1.5	2018年9月20日	2.6

## 年間収益率の推移(暦年ベース)



※年間収益率は、分配金再投資基準価額をもとに計算したものです。  
 ※当ファンドにはベンチマークはありません。  
 ※2014年は、1月から10月末までの収益率を表示しています。

当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆、保証するものではありません。

運用実績については、別途開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧することができます。

## 第2 【管理及び運営】

### 1 【申込（販売）手続等】

各ファンドのお申込みは、原則として委託会社および販売会社の営業日の午後3時までにお買付けのお申込みが行われ、かつ当該お申込みの受付にかかる販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日分のお申込みといたします。この時間を過ぎてのお申込みおよび所定の事務手続き完了分については翌営業日のお取扱いとなります。

各ファンドは、収益分配がなされた場合、原則として税金を差し引いた後、分配金を自動的に無手数料で再投資する「累積投資専用ファンド」です。このためお申込みの際、取得申込者は販売会社との間で「ミリオン（従業員積立投資プラン）累積投資約款」にしたがって、分配金累積投資に関する契約を締結します。

なお、ミリオン（従業員積立投資プラン）の取得のお申込みは、原則として給与天引き方式です。

販売会社によっては、上記各契約または規定について同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合、当該別の名称に読み替えるものとします。

取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。

申込単位は販売会社により異なります。申込単位については、販売会社にお問い合わせください。

取得申込みにかかる受益権の価額は、取得申込日の基準価額とします。

分配金累積投資に関する契約に基づき、収益分配金の再投資する際は、1口単位で購入できるものとします。なお、その際の受益権の価額は、原則として各計算期間終了日の基準価額とします。

証券取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、販売会社は、受益権の取得申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた取得申込みの受付を取消することができます。

### 2 【換金（解約）手続等】

#### (1) 一部解約

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に1口単位をもって解約を請求することができます。

解約の請求を行う受益者は、振替制度にかかる口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。なお、解約の請求を受益者が行う際は、振替受益権をもって行うものとします。

解約請求の受付については、原則として委託会社および販売会社の営業日の午後3時までには解約のお申込みが行われ、かつ当該お申込みの受付にかかる販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日分のお申込みとします。この時間を過ぎてのお申込みおよび所定の事務手続き完了分については、翌営業日のお取扱いとなります。

解約の価額は、解約請求受付日の基準価額とします。詳しくは、販売会社または委託会社にお問い合わせください。なお、委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	電話番号
--------	------

みずほ投信投資顧問株式会社	0120-324-431
---------------	--------------

電話によるお問い合わせは、営業日の午前9時～午後5時までとさせていただきます。（以下同じ。）

解約代金は、受益者の請求を受付けた日から起算して、原則として、4営業日目から販売会社において受益者に支払われます。

信託財産の資金管理を円滑に行うために大口の解約請求には制限を設ける場合があります。

委託会社は、証券取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受け付けを取り消すことができます。

この場合、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして、当該基準価額の計算日の基準価額とします。

## (2) 受益権の買取り

販売会社は、受益者から受益権の買取りの請求があるときは、1口単位をもってその受益権を買取ります。なお、受益者が受益権の買取りを請求するときは、振替受益権をもって行うものとします。

受益権の買取り価額は、買取り約定日の基準価額とします。

一定の要件を満たしている買取り請求による換金の場合に限るものとします。なお、一定の要件を満たしていない場合には、買取り約定日の基準価額から当該買取りを行う販売会社にかかる源泉徴収税額に相当する額を差し引いた金額となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

販売会社は、証券取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、委託会社との協議に基づいて受益権の買取りを中止すること、およびすでに受け付けた受益権の買取りを取り消すことができます。この場合、受益者は買取り中止以前に行った当日の買取り請求を撤回できます。ただし、受益者がその買取り請求を撤回しない場合には、当該受益権の買取り価額は、当該買取り中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に買取りを受け付けたものとして、上記の規定に準じて計算された価額とします。

(注) 税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

## 3 【資産管理等の概要】

### (1) 【資産の評価】

基準価額とは、信託財産に属する資産を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

< 主な投資対象資産の時価評価方法の原則 >

株式：計算日における取引所の最終相場（終値）

公社債等：計算日における以下のいずれかの価額

日本証券業協会が発表する売買参考統計値（平均値）

金融商品取引業者、銀行などの提示する価額（売り気配相場を除きます。）

価格情報会社の提供する価額

マザーファンド受益証券：計算日の基準価額

各ファンドの基準価額は、委託会社の毎営業日（土曜日、日曜日、「国民の祝日に関する法律」に定める休日ならびに12月31日、1月2日および1月3日以外の日とします。）に計算されます。基準価額については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。なお、委託会社に対する照会は下記においてできます。基準価額は1万口単位で表示されたものが発表されます。

照会先の名称	ホームページアドレス	電話番号
みずほ投信投資顧問株式会社	<a href="http://www.mizuho-am.co.jp/">http://www.mizuho-am.co.jp/</a>	0120-324-431

## (2) 【保管】

該当事項はありません。

## (3) 【信託期間】

昭和62年10月30日から無期限とします。

## (4) 【計算期間】

原則として毎年10月30日から翌年10月29日までとします。

上記の規定にかかわらず、計算期間終了日に該当する日(以下「当該日」といいます。)が休業日のとき、計算期間終了日は、当該日の翌日以降の最初の営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

## (5) 【その他】

## 信託契約の解約

以下の場合には信託契約を解約し信託を終了することがあります。

1. 委託会社は、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、該当するファンドの信託契約を解約し、信託を終了させることができます。
  - a. この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。委託会社はかかる事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面を信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、信託契約にかかる全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
  - b. 前記a.の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一ヵ月を下らないものとします。
  - c. 前記b.の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記1.の信託契約の解約をしません。
  - d. 委託会社は、信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
  - e. 前記b.からd.までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記b.の一定の期間が一ヵ月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。
  - f. 前記1.に定める信託契約の解約を行う場合において、前記b.の期間内に異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。なお、買取請求の取扱いについては、委託会社、受託会社の協議により決定するものとします。
2. 委託会社は、監督官庁より信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し、信託を終了させます。

3．委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が、信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、信託は、「 信託約款の変更4.」に該当する場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。

4．受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は該当するファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。

#### 信託約款の変更

1．委託会社は、信託約款を変更することが受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、該当するファンドの信託約款を変更できるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

2．委託会社は、前記1．の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を信託約款にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、該当するファンドの信託約款にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

3．前記2．の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一ヵ月を下らないものとします。

4．前記3．の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記1．の信託約款の変更をしません。

5．委託会社は、信託約款を変更しないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

6．前記2．に定める変更を行う場合において、前記3．の期間内に異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。なお、買取請求の取扱いについては、委託会社、受託会社の協議により決定するものとします。

7．委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、上記の規定にしたがいます。

#### 委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

1．委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴ない、信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

2．委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴ない、信託契約に関する事業を承継させることがあります。

#### 関係法人との契約の更改および受託会社の辞任または解任に伴う取扱い

1．委託会社と販売会社との間の募集・販売等契約は、締結日から原則1年間とし、期間終了の3ヵ月前までに別段の意思表示のない時は、同一条件にて継続されます。

2．受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。また、受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、「 信託約款の変更」の規定にしたがい、新受託会社を選任します。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。

#### 信託事務処理の再信託

受託会社は、各ファンドにかかる信託事務処理の一部について、資産管理サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

#### 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.mizuho-am.co.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

#### 運用報告書

委託会社は、決算時および信託終了時に期中の運用経過のほか、信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した「運用報告書」を作成します。

- ・ 交付運用報告書は、販売会社を通じて交付いたします。
- ・ 運用報告書（全体版）は、次のアドレスに掲載します。ただし、受益者から運用報告書（全体版）の交付の請求があった場合には、交付いたします。

<http://www.mizuho-am.co.jp/>

## 4 【受益者の権利等】

受益者の主な権利の内容は次のとおりです。

### (1) 収益分配金に対する請求権

各ファンドの収益分配金は、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に、販売会社に交付され、販売会社により自動的に再投資されます。この場合、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

### (2) 一部解約の実行請求権

受益者は、一部解約の実行を信託約款の規定および本書の記載にしたがって請求することができます。

### (3) 償還金に対する請求権

受益者は、信託約款の規定および本書の記載にしたがって、持ち分に応じて償還金を請求することができます。ただし、受益者が、信託終了による償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に支払われます。

償還金の支払いは、原則として償還日（償還日が休業日の場合は当該償還日の翌営業日）から起算して5営業日までに販売会社において開始されます。

### (4) 帳簿書類の閲覧・謄写の請求権

受益者は、委託会社に対し、当該受益者にかかる信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

### 第3 【ファンドの経理状況】

#### インデックスミリオン

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第27期計算期間の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

#### 1 【財務諸表】

##### 【インデックスミリオン】

##### (1) 【貸借対照表】

(単位：円)

区 分	第 26 期計算期間 (平成25年10月29日現在)	第 27 期計算期間 (平成26年10月29日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	37,969,129	35,358,757
親投資信託受益証券	4,083,204,301	3,890,934,257
未収入金	36,500,000	30,100,000
未収利息	52	43
流動資産合計	4,157,673,482	3,956,393,057
資産合計	4,157,673,482	3,956,393,057
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	25,118,785	25,898,569
未払解約金	12,075,523	3,390,227
未払受託者報酬	1,736,587	1,686,022
未払委託者報酬	31,909,823	30,980,519
その他未払費用	108,477	105,310
流動負債合計	70,949,195	62,060,647
負債合計	70,949,195	62,060,647
純資産の部		
元本等		
元本	8,372,928,534	7,399,591,273
剰余金		

期末剰余金又は期末欠損金( )	4,286,204,247	3,505,258,863
元本等合計	4,086,724,287	3,894,332,410
純資産合計	4,086,724,287	3,894,332,410
負債純資産合計	4,157,673,482	3,956,393,057



## （２）【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

区 分	第 26 期計算期間 (自 平成24年10月30日 至 平成25年10月29日)	第 27 期計算期間 (自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日)
営業収益		
受取利息	13,701	10,433
有価証券売買等損益	1,727,816,096	417,829,956
営業収益合計	1,727,829,797	417,840,389
営業費用		
受託者報酬	3,167,238	3,366,923
委託者報酬	58,198,073	61,866,967
その他費用	197,834	210,307
営業費用合計	61,563,145	65,444,197
営業利益又は営業損失( )	1,666,266,652	352,396,192
経常利益又は経常損失( )	1,666,266,652	352,396,192
当期純利益又は当期純損失( )	1,666,266,652	352,396,192
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	227,881,978	60,382,875
期首剰余金又は期首欠損金( )	6,386,284,212	4,286,204,247
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,223,668,283	818,343,526
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,223,668,283	818,343,526
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		
剰余金減少額又は欠損金増加額	536,854,207	303,512,890
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	536,854,207	303,512,890
分配金	25,118,785	25,898,569
期末剰余金又は期末欠損金( )	4,286,204,247	3,505,258,863

## （ 3 ） 【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

項目	第 27 期計算期間 （自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日）
1 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券  基準価額で評価しております。
2 収益・費用の計上基準	有価証券売買等損益  約定日基準で計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

項 目	期別	第 26 期計算期間 （平成25年10月29日現在）	第 27 期計算期間 （平成26年10月29日現在）
1 計算期間末日の受益権総口数		8,372,928,534口	7,399,591,273口
2 元本の欠損金額		純資産額は元本を4,286,204,247円下回っております。	純資産額は元本を3,505,258,863円下回っております。
3 期末1口当たりの純資産の額 （期末1万口当たりの純資産の額）		0.4881 円 (4,881 円)	0.5263 円 (5,263 円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第 26 期計算期間 （自 平成24年10月30日 至 平成25年10月29日）	第 27 期計算期間 （自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日）
（単位：円）	（単位：円）
1 分配金の計算過程  計算期間末における費用控除後の配当等収益（57,259,508円）、有価証券売買等損益（15,501,857円）、収益調整金（1,414,102,647円）、分配準備積立金（85,582,258円）より、分配対象収益は1,572,446,270円（1万口当たり1,877円）であり、うち25,118,785円（1万口当たり30円）を分配金額としております。	1 分配金の計算過程  計算期間末における費用控除後の配当等収益（47,583,563円）、有価証券売買等損益（244,429,754円）、収益調整金（1,259,271,348円）、分配準備積立金（108,556,638円）より、分配対象収益は1,659,841,303円（1万口当たり2,243円）であり、うち25,898,569円（1万口当たり35円）を分配金額としております。
配当等収益 57,259,508	配当等収益 47,583,563
有価証券売買等損益 15,501,857	有価証券売買等損益 244,429,754
収益調整金 1,414,102,647	収益調整金 1,259,271,348

分配準備積立金	85,582,258	分配準備積立金	108,556,638
分配可能額	1,572,446,270	分配可能額	1,659,841,303
収益分配額	25,118,785	収益分配額	25,898,569

## （金融商品に関する注記）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

項目	第 26 期計算期間 （自 平成24年10月30日 至 平成25年10月29日）	第 27 期計算期間 （自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日）
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める投資を目的とする証券投資信託であり、証券投資信託約款および投資ガイドラインに基づいて運用しております。	同左
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 なお、詳細は附属明細表をご参照下さい。これらは、市場リスク（価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク）、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左
3 金融商品に係るリスク管理体制	運用部門がポジション管理を行っておりますが、取引の執行・記録・管理については、トレーディング部門が行っております。また、コンプライアンス・リスク管理部門においてデリバティブに関する法令・約款など運用に関する諸規則の遵守状況のチェックを行うとともにポートフォリオのリスク状況の分析・チェックを行い、上記プロセスを通じ、適正なリスク管理が行われているかをチェックし、必要に応じて関連部署へ報告、注意、勧告を行っております。 なお具体的には以下のリスクの管理を行っております。	同左

<p>4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明</p>	<p>市場リスクの管理 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。</p> <p>信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p>流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p> <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。</p>	<p>同左</p>
----------------------------------	--	-----------

## 2. 金融商品の時価に関する事項

項目	第 26 期計算期間 (平成25年10月29日現在)	第 27 期計算期間 (平成26年10月29日現在)
1 貸借対照表日における貸借対照表の科目ごとの計上額・時価・時価との差額	貸借対照表に計上している金融商品は、原則として時価評価としているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	<p>(1) 有価証券 親投資信託受益証券</p> <p>原則として、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。</p> <p>(2) コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務</p> <p>コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>	<p>(1) 有価証券 親投資信託受益証券</p> <p>同左</p> <p>(2) コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務</p> <p>同左</p>

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

## 第 26 期計算期間（自 平成24年10月30日 至 平成25年10月29日）

種類	当計算期間の損益に含まれた 評価差額（円）
親投資信託受益証券	1,578,709,061
合計	1,578,709,061

## 第 27 期計算期間（自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日）

種類	当計算期間の損益に含まれた 評価差額（円）
親投資信託受益証券	374,370,970
合計	374,370,970

## （デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

第 26 期計算期間 （自 平成24年10月30日 至 平成25年10月29日）	第 27 期計算期間 （自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日）
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。	同左

## （その他の注記）

項 目	期別	第 26 期計算期間 （平成25年10月29日現在）	第 27 期計算期間 （平成26年10月29日現在）
1 期首元本額		9,213,496,885 円	8,372,928,534 円
期中追加設定元本額		937,852,718 円	627,876,038 円
期中一部解約元本額		1,778,421,069 円	1,601,213,299 円

## （ 4 ） 【附属明細表】

## 第 1 有価証券明細表

## （ 1 ） 株式

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券

## 有価証券明細表

インデックスミリオン

(平成26年10月29日現在)

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
親投資信託受益証券					
	日本・円	ミリオン・インデックスマザー ファンド	4,206,415,414	3,890,934,257	
	日本・円 小計	銘柄数 組入時価比率	4,206,415,414 1 99.9%	3,890,934,257 100.0%	
親投資信託受益証券 合計				3,890,934,257	

(注1) 比率は左より組入時価の純資産総額に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## ボンドミックスミリオン

（１）当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

（２）当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第27期計算期間の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 【ボンドミックスミリオン】

#### （１）【貸借対照表】

（単位：円）

区 分	第 26 期計算期間 （平成25年10月29日現在）	第 27 期計算期間 （平成26年10月29日現在）
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	17,029,694	26,655,477
国債証券	270,389,090	221,902,280
特殊債券	151,134,600	151,020,100
親投資信託受益証券	437,774,037	402,212,175
未収利息	575,677	277,356
前払費用	24,656	197
流動資産合計	876,927,754	802,067,585
資産合計	876,927,754	802,067,585
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	5,493,413	3,402,212
未払解約金	120,180	
未払受託者報酬	375,763	348,141
未払委託者報酬	6,904,546	6,397,081
その他未払費用	23,423	21,701
流動負債合計	12,917,325	10,169,135
負債合計	12,917,325	10,169,135
純資産の部		
元本等		
元本	1,098,682,702	972,060,712
剰余金		

期末剰余金又は期末欠損金( )	234,672,273	180,162,262
元本等合計	864,010,429	791,898,450
純資産合計	864,010,429	791,898,450
負債純資産合計	876,927,754	802,067,585



## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

区 分	第 26 期計算期間 （自 平成24年10月30日 至 平成25年10月29日）	第 27 期計算期間 （自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日）
営業収益		
受取利息	3,765,454	2,109,384
有価証券売買等損益	213,526,225	47,088,528
営業収益合計	217,291,679	49,197,912
営業費用		
受託者報酬	730,533	698,529
委託者報酬	13,423,494	12,835,424
その他費用	45,542	43,537
営業費用合計	14,199,569	13,577,490
営業利益又は営業損失（ ）	203,092,110	35,620,422
経常利益又は経常損失（ ）	203,092,110	35,620,422
当期純利益又は当期純損失（ ）	203,092,110	35,620,422
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	25,294,689	5,558,458
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	470,414,020	234,672,273
剰余金増加額又は欠損金減少額	77,386,813	37,335,448
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	77,386,813	37,335,448
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		
剰余金減少額又は欠損金増加額	13,949,074	9,485,189
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	13,949,074	9,485,189
分配金	5,493,413	3,402,212
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	234,672,273	180,162,262

## （ 3 ） 【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

項目	第 27 期計算期間 （自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日）
1 有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券・特殊債券  原則として時価で評価しております。  親投資信託受益証券  基準価額で評価しております。
2 収益・費用の計上基準	有価証券売買等損益  約定日基準で計上しております。

（貸借対照表に関する注記）

項 目	期別	第 26 期計算期間 （平成25年10月29日現在）	第 27 期計算期間 （平成26年10月29日現在）
1 計算期間末日の受益権総口数		1,098,682,702口	972,060,712口
2 元本の欠損金額		純資産額は元本を234,672,273円下回っております。	純資産額は元本を180,162,262円下回っております。
3 期末1口当たりの純資産の額 （期末1万口当たりの純資産の額）		0.7864 円 (7,864 円)	0.8147 円 (8,147 円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第 26 期計算期間 （自 平成24年10月30日 至 平成25年10月29日）	第 27 期計算期間 （自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日）
（単位：円）	（単位：円）
1 分配金の計算過程  計算期間末における費用控除後の配当等収益（9,359,079円）、有価証券売買等損益（8,350,873円）、収益調整金（244,741,570円）、分配準備積立金（13,199,641円）より、分配対象収益は275,651,163円（1万口当たり2,508円）であり、うち5,493,413円（1万口当たり50円）を分配金額としております。	1 分配金の計算過程  計算期間末における費用控除後の配当等収益（5,574,846円）、有価証券売買等損益（24,487,118円）、収益調整金（217,596,539円）、分配準備積立金（21,448,565円）より、分配対象収益は269,107,068円（1万口当たり2,768円）であり、うち3,402,212円（1万口当たり35円）を分配金額としております。
配当等収益  9,359,079	配当等収益  5,574,846

有価証券売買等損益	8,350,873	有価証券売買等損益	24,487,118
収益調整金	244,741,570	収益調整金	217,596,539
分配準備積立金	13,199,641	分配準備積立金	21,448,565
分配可能額	275,651,163	分配可能額	269,107,068
収益分配額	5,493,413	収益分配額	3,402,212

(金融商品に関する注記)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

項目	第 26 期計算期間 (自 平成24年10月30日 至 平成25年10月29日)	第 27 期計算期間 (自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日)
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める投資を目的とする証券投資信託であり、証券投資信託約款および投資ガイドラインに基づいて運用しております。	同左
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 なお、詳細は附属明細表をご参照下さい。これらは、市場リスク（価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク）、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左
3 金融商品に係るリスク管理体制	運用部門がポジション管理を行っておりますが、取引の執行・記録・管理については、トレーディング部門が行っております。また、コンプライアンス・リスク管理部門においてデリバティブに関する法令・約款など運用に関する諸規則の遵守状況のチェックを行うとともにポートフォリオのリスク状況の分析・チェックを行い、上記プロセスを通じ、適正なリスク管理が行われているかをチェックし、必要に応じて関連部署へ報告、注意、勧告を行っております。 なお具体的には以下のリスクの管理を行っております。	同左

4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>市場リスクの管理 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。</p> <p>信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p>流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p> <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。 また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。</p>	同左
---------------------------	---	----

## 2. 金融商品の時価に関する事項

項目	第 26 期計算期間 (平成25年10月29日現在)	第 27 期計算期間 (平成26年10月29日現在)
1 貸借対照表日における貸借対照表の科目ごとの計上額・時価・時価との差額	貸借対照表に計上している金融商品は、原則として時価評価としているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左

<p>2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法</p>	<p>(1) 有価証券</p> <p>国債証券、特殊債券 わが国の金融商品取引所または海外取引所に上場されていない有価証券 当該有価証券については、原則として、日本証券業協会が発表する売買参考統計値（平均値）（外貨建証券を除く）、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く）または価格情報会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できない場合または入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認められた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> <p>親投資信託受益証券</p> <p>原則として、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。</p> <p>(2) コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務</p> <p>コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>	<p>(1) 有価証券</p> <p>国債証券、特殊債券 同左</p> <p>親投資信託受益証券 同左</p> <p>(2) コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 同左</p>
-----------------------------	--	---

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

第 26 期計算期間（自 平成24年10月30日 至 平成25年10月29日）

種類	当計算期間の損益に含まれた 評価差額（円）
国債証券	799,500
特殊債券	333,000
親投資信託受益証券	145,626,219
合計	144,493,719

第 27 期計算期間（自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日）

種類	当計算期間の損益に含まれた 評価差額（円）
----	--------------------------

国債証券	4,850
特殊債券	100,500
親投資信託受益証券	36,960,037
合計	36,854,687

## （デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

第 26 期計算期間 （自 平成24年10月30日 至 平成25年10月29日）	第 27 期計算期間 （自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日）
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。	同左

## （その他の注記）

項 目	期別	第 26 期計算期間 （平成25年10月29日現在）	第 27 期計算期間 （平成26年10月29日現在）
1 期首元本額		1,253,213,528 円	1,098,682,702 円
期中追加設定元本額		52,689,683 円	48,403,011 円
期中一部解約元本額		207,220,509 円	175,025,001 円

## （ 4 ） 【附属明細表】

## 第 1 有価証券明細表

## （ 1 ） 株式

該当事項はありません。

## （ 2 ） 株式以外の有価証券

## 有価証券明細表

## ボンドミックスミリオン

（平成26年10月29日現在）

種類	通貨	銘柄	券面総額・口数	評価額	備考
国債証券					
	日本・円	第 8 9 回利付国債（ 5 年）	32,000,000	32,079,040	
		第 9 3 回利付国債（ 5 年）	8,000,000	8,044,560	
		第 9 5 回利付国債（ 5 年）	15,000,000	15,121,350	

		第98回利付国債（5年）	10,000,000	10,046,600	
		第102回利付国債（5年）	10,000,000	10,059,800	
		第103回利付国債（5年）	14,000,000	14,091,700	
		第106回利付国債（5年）	24,000,000	24,114,000	
		第107回利付国債（5年）	43,000,000	43,215,430	
		第109回利付国債（5年）	5,000,000	5,009,250	
		第110回利付国債（5年）	15,000,000	15,129,150	
		第117回利付国債（5年）	9,000,000	9,039,240	
		第296回利付国債（10年）	20,000,000	21,108,800	
		第305回利付国債（10年）	14,000,000	14,843,360	
	日本・円 小計	銘柄数 組入時価比率	219,000,000 13 28.0%	221,902,280 28.6%	
国債証券 合計				221,902,280	
特殊債券					
	日本・円	い第718号商工債	10,000,000	10,025,700	
		い第733号商工債	10,000,000	10,073,700	
		い第734号商工債	10,000,000	10,077,300	
		い第737号農林債	100,000,000	100,736,000	
		第275回信金中金債（5年）	20,000,000	20,107,400	
	日本・円 小計	銘柄数 組入時価比率	150,000,000 5 19.1%	151,020,100 19.5%	
特殊債券 合計				151,020,100	
親投資信託受益証券					
	日本・円	ミリオン・インデックスマザー ファンド	434,823,973	402,212,175	
	日本・円 小計	銘柄数 組入時価比率	434,823,973 1 50.8%	402,212,175 51.9%	
親投資信託受益証券 合計				402,212,175	
合計				775,134,555	

（注1）比率は左より組入時価の純資産総額に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

各ファンドは、「ミリオン・インデックスマザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。なお、同マザーファンドの状況は次の通りです。

ミリオン・インデックスマザーファンドの状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

### （１）貸借対照表

(単位：円)

区 分	(平成26年10月29日現在)
資産の部	
流動資産	
コール・ローン	316,297,963
株式	3,960,680,750
派生商品評価勘定	539,460
未収配当金	26,173,900
未収利息	386
前払金	5,488,000
差入委託証拠金	15,840,000
流動資産合計	4,325,020,459
資産合計	4,325,020,459
負債の部	
流動負債	
派生商品評価勘定	736,800
未払金	73,080
未払解約金	30,100,000
流動負債合計	30,909,880
負債合計	30,909,880
純資産の部	
元本等	
元本	4,641,239,387
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	347,128,808
元本等合計	4,294,110,579
純資産合計	4,294,110,579
負債純資産合計	4,325,020,459

### （２）注記表



## （重要な会計方針に係る事項に関する注記）

項目	（自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日）
1 有価証券の評価基準及び評価方法	株式  原則として時価で評価しております。
2 派生商品等の評価基準及び評価方法	先物取引  原則として時価で評価しております。
3 収益・費用の計上基準	受取配当金  受取配当金は、原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。  有価証券売買等損益及び派生商品取引等損益  約定日基準で計上しております。

## （貸借対照表に関する注記）

項目	期別	（平成26年10月29日現在）
1 計算期間末日の受益権総口数		4,641,239,387口
2 元本の欠損金額		純資産額は元本を347,128,808円下回っております。
3 期末1口当たりの純資産の額 （期末1千口当たりの純資産の額）		0.925 円 (925 円)

## （金融商品に関する注記）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

項目	（自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日）
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める投資を目的とする証券投資信託であり、証券投資信託約款および投資ガイドラインに基づいて運用しております。

2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	<p>当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。</p> <p>なお、詳細は附属明細表をご参照下さい。</p> <p>これらは、市場リスク（価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク）、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。</p> <p>また、当ファンドは信託財産に属する資産の効率的な運用に資することを目的として、株価指数先物取引を行っており、当該デリバティブ取引は対象とする株価指数等に係る価格変動リスクを有しております。</p>
3 金融商品に係るリスク管理体制	<p>運用部門がポジション管理を行っておりますが、取引の執行・記録・管理については、トレーディング部門が行っております。また、コンプライアンス・リスク管理部門においてデリバティブに関する法令・約款など運用に関する諸規則の遵守状況のチェックを行うとともにポートフォリオのリスク状況の分析・チェックを行い、上記プロセスを通じ、適正なリスク管理が行われているかをチェックし、必要に応じて関連部署へ報告、注意、勧告を行っております。</p> <p>なお具体的には以下のリスクの管理を行っております。</p>
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p><b>市場リスクの管理</b> 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。</p> <p><b>信用リスクの管理</b> 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p><b>流動性リスクの管理</b> 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p> <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。</p>

## 2. 金融商品の時価に関する事項

項目	(平成26年10月29日現在)
1 貸借対照表日における貸借対照表の科目ごとの計上額・時価・時価との差額	貸借対照表に計上している金融商品は、原則として時価評価としているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。

2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	<p>(1) 有価証券</p> <p>株式</p> <p>わが国の金融商品取引所または海外取引所に上場されている有価証券 当該有価証券については、原則として上記の取引所における計算期間末日の最終相場（外貨建証券の場合は計算期間末日において知りうる直近の日の最終相場）で評価しております。</p> <p>時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できない場合または入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引</p> <p>先物取引</p> <p>デリバティブ取引に関する注記に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務</p> <p>コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>
----------------------	---

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

(自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日)

種類	当計算期間の損益に含まれた 評価差額（円）
株式	313,263,863
合計	313,263,863

(デリバティブ取引に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(株式関連)

(自 平成25年10月30日 至 平成26年10月29日)

種類	(平成26年10月29日 現在)		
	契約額等(円)		時価 (円)
	うち1年超		
市場取引			評価損益 (円)

株価指数先物取引 買建				
日経平均株価指数先物	327,167,340		326,970,000	197,340
小計	327,167,340		326,970,000	197,340
合計	327,167,340		326,970,000	197,340

## (注) 時価の算定方法

株価指数先物取引の時価の算定方法については、取引所の発表する計算日の清算値段により評価しております。

## (その他の注記)

項目	期別	(平成26年10月29日現在)
1	親投資信託の期首における元本額	5,394,962,218 円 (平成25年10月30日)
	期中追加設定元本額	264,100,015 円
	期中一部解約元本額	1,017,822,846 円
2	期末元本額及びその内訳として当該親投資信託受益証券を投資対象とする委託者指図型投資信託ごとの元本額	
	期末元本額	4,641,239,387 円
	インデックスミリオン	4,206,415,414 円
	ボンドミックスミリオン	434,823,973 円

## (3) 附属明細表

## 第1 有価証券明細表

## (1) 株式

## 有価証券明細表

## ミリオン・インデックスマザーファンド

(平成26年10月29日現在)

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
日本・円	日本水産	10,000	321.00	3,210,000	
	マルハニチロ	1,000	1,563.00	1,563,000	
	国際石油開発帝石	4,000	1,350.00	5,400,000	
	コムシスホールディングス	10,000	1,856.00	18,560,000	
	大成建設	10,000	600.00	6,000,000	
	大林組	10,000	747.00	7,470,000	
	清水建設	10,000	795.00	7,950,000	
	鹿島建設	10,000	491.00	4,910,000	
	大和ハウス工業	10,000	1,950.50	19,505,000	

積水ハウス	10,000	1,301.50	13,015,000	
日揮	10,000	2,716.50	27,165,000	
千代田化工建設	10,000	1,080.00	10,800,000	
日清製粉グループ本社	10,000	1,069.00	10,690,000	
明治ホールディングス	1,000	8,870.00	8,870,000	
日本ハム	10,000	2,485.00	24,850,000	
サッポロホールディングス	10,000	453.00	4,530,000	
アサヒグループホールディングス	10,000	3,326.00	33,260,000	
キリンホールディングス	10,000	1,402.50	14,025,000	
宝ホールディングス	10,000	814.00	8,140,000	
キッコーマン	10,000	2,348.00	23,480,000	
味の素	10,000	2,030.00	20,300,000	
ニチレイ	10,000	452.00	4,520,000	
日本たばこ産業	10,000	3,621.50	36,215,000	
東洋紡	10,000	150.00	1,500,000	
ユニチカ	10,000	47.00	470,000	
日清紡ホールディングス	10,000	842.00	8,420,000	
帝人	10,000	257.00	2,570,000	
東レ	10,000	712.40	7,124,000	
王子ホールディングス	10,000	378.00	3,780,000	
日本製紙	1,000	1,572.00	1,572,000	
北越紀州製紙	10,000	438.00	4,380,000	
クラレ	10,000	1,254.00	12,540,000	
旭化成	10,000	864.50	8,645,000	
昭和電工	10,000	136.00	1,360,000	
住友化学	10,000	366.00	3,660,000	
日産化学工業	10,000	1,915.00	19,150,000	
日本曹達	10,000	588.00	5,880,000	
東ソー	10,000	450.00	4,500,000	
トクヤマ	10,000	316.00	3,160,000	
電気化学工業	10,000	347.00	3,470,000	
信越化学工業	10,000	6,706.00	67,060,000	
三井化学	10,000	311.00	3,110,000	
三菱ケミカルホールディングス	5,000	527.80	2,639,000	
宇部興産	10,000	165.00	1,650,000	
日本化薬	10,000	1,319.00	13,190,000	
花王	10,000	4,096.50	40,965,000	
富士フイルムホールディングス	10,000	3,647.50	36,475,000	
資生堂	10,000	1,797.00	17,970,000	
日東電工	10,000	5,745.00	57,450,000	
協和発酵キリン	10,000	1,219.00	12,190,000	

武田薬品工業	10,000	4,628.00	46,280,000	
アステラス製薬	50,000	1,644.50	82,225,000	
大日本住友製薬	10,000	1,302.00	13,020,000	
塩野義製薬	10,000	2,657.00	26,570,000	
中外製薬	10,000	3,220.00	32,200,000	
エーザイ	10,000	4,278.00	42,780,000	
第一三共	10,000	1,619.00	16,190,000	
昭和シェル石油	10,000	920.00	9,200,000	
JXホールディングス	10,000	455.30	4,553,000	
横浜ゴム	10,000	944.00	9,440,000	
ブリヂストン	10,000	3,535.50	35,355,000	
日東紡績	10,000	366.00	3,660,000	
旭硝子	10,000	547.70	5,477,000	
日本電気硝子	15,000	483.00	7,245,000	
住友大阪セメント	10,000	333.00	3,330,000	
太平洋セメント	10,000	393.00	3,930,000	
東海カーボン	10,000	273.00	2,730,000	
TOTO	10,000	1,166.00	11,660,000	
日本碍子	10,000	2,463.00	24,630,000	
新日鐵住金	10,000	272.60	2,726,000	
神戸製鋼所	10,000	170.00	1,700,000	
ジェイ エフ イー ホールディングス	1,000	2,119.00	2,119,000	
日新製鋼	1,000	986.00	986,000	
大平洋金属	10,000	355.00	3,550,000	
日本軽金属ホールディングス	10,000	152.00	1,520,000	
三井金属鉱業	10,000	276.00	2,760,000	
東邦亜鉛	10,000	367.00	3,670,000	
三菱マテリアル	10,000	327.00	3,270,000	
住友金属鉱山	10,000	1,477.50	14,775,000	
DOWAホールディングス	10,000	880.00	8,800,000	
古河機械金属	10,000	209.00	2,090,000	
古河電気工業	10,000	186.00	1,860,000	
住友電気工業	10,000	1,417.50	14,175,000	
フジクラ	10,000	445.00	4,450,000	
SUMCO	1,000	1,404.00	1,404,000	
東洋製罐グループホールディングス	10,000	1,230.00	12,300,000	
日本製鋼所	10,000	376.00	3,760,000	
オクマ	10,000	739.00	7,390,000	
アマダ	10,000	919.00	9,190,000	
小松製作所	10,000	2,508.00	25,080,000	
住友重機械工業	10,000	573.00	5,730,000	

日立建機	10,000	2,152.00	21,520,000	
クボタ	10,000	1,656.50	16,565,000	
荏原製作所	10,000	575.00	5,750,000	
ダイキン工業	10,000	6,433.00	64,330,000	
日本精工	10,000	1,409.00	14,090,000	
NTN	10,000	441.00	4,410,000	
ジェイテクト	10,000	1,641.00	16,410,000	
日立造船	2,000	565.00	1,130,000	
三菱重工業	10,000	652.60	6,526,000	
IHI	10,000	511.00	5,110,000	
コニカミノルタ	10,000	1,162.00	11,620,000	
ミネベア	10,000	1,470.00	14,700,000	
日立製作所	10,000	804.50	8,045,000	
東芝	10,000	454.60	4,546,000	
三菱電機	10,000	1,344.50	13,445,000	
富士電機	10,000	470.00	4,700,000	
安川電機	10,000	1,343.00	13,430,000	
明電舎	10,000	386.00	3,860,000	
ジーエス・ユアサ コーポレーション	10,000	541.00	5,410,000	
日本電気	10,000	375.00	3,750,000	
富士通	10,000	693.00	6,930,000	
沖電気工業	10,000	246.00	2,460,000	
パナソニック	10,000	1,239.00	12,390,000	
シャープ	10,000	265.00	2,650,000	
ソニー	10,000	2,001.50	20,015,000	
TDK	10,000	5,950.00	59,500,000	
ミツミ電機	10,000	648.00	6,480,000	
アルプス電気	10,000	1,778.00	17,780,000	
パイオニア	10,000	279.00	2,790,000	
横河電機	10,000	1,427.00	14,270,000	
アドバンテスト	20,000	1,208.00	24,160,000	
カシオ計算機	10,000	1,776.00	17,760,000	
ファナック	10,000	18,050.00	180,500,000	
京セラ	20,000	4,678.00	93,560,000	
太陽誘電	10,000	1,058.00	10,580,000	
SCREENホールディングス	10,000	569.00	5,690,000	
キヤノン	15,000	3,212.50	48,187,500	
リコー	10,000	1,106.00	11,060,000	
東京エレクトロン	10,000	6,625.00	66,250,000	
デンソー	10,000	4,940.50	49,405,000	
三井造船	10,000	233.00	2,330,000	

川崎重工業	10,000	414.00	4,140,000
日産自動車	10,000	951.80	9,518,000
いすゞ自動車	5,000	1,360.00	6,800,000
トヨタ自動車	10,000	6,262.00	62,620,000
日野自動車	10,000	1,518.00	15,180,000
三菱自動車工業	1,000	1,148.00	1,148,000
マツダ	2,000	2,384.00	4,768,000
本田技研工業	20,000	3,303.50	66,070,000
スズキ	10,000	3,338.00	33,380,000
富士重工業	10,000	3,349.50	33,495,000
テルモ	20,000	2,536.00	50,720,000
ニコン	10,000	1,420.00	14,200,000
オリンパス	10,000	3,770.00	37,700,000
シチズンホールディングス	10,000	680.00	6,800,000
凸版印刷	10,000	717.00	7,170,000
大日本印刷	10,000	1,032.50	10,325,000
ヤマハ	10,000	1,421.00	14,210,000
中部電力	1,000	1,278.50	1,278,500
関西電力	1,000	1,034.50	1,034,500
東京瓦斯	10,000	610.80	6,108,000
大阪瓦斯	10,000	422.60	4,226,000
東武鉄道	10,000	526.00	5,260,000
東京急行電鉄	10,000	673.00	6,730,000
小田急電鉄	10,000	971.00	9,710,000
京王電鉄	10,000	783.00	7,830,000
京成電鉄	10,000	1,215.00	12,150,000
東日本旅客鉄道	1,000	8,282.00	8,282,000
西日本旅客鉄道	1,000	5,096.00	5,096,000
東海旅客鉄道	1,000	15,190.00	15,190,000
日本通運	10,000	457.00	4,570,000
ヤマトホールディングス	10,000	2,116.00	21,160,000
日本郵船	10,000	278.00	2,780,000
商船三井	10,000	341.00	3,410,000
川崎汽船	10,000	241.00	2,410,000
A N Aホールディングス	10,000	254.40	2,544,000
三菱倉庫	10,000	1,495.00	14,950,000
ヤフー	4,000	413.00	1,652,000
トレンドマイクロ	10,000	3,530.00	35,300,000
スカパーJ S A Tホールディングス	1,000	632.00	632,000
日本電信電話	1,000	6,453.00	6,453,000
K D D I	20,000	6,899.00	137,980,000



NTTドコモ	1,000	1,779.50	1,779,500
東宝	1,000	2,351.00	2,351,000
エヌ・ティ・ティ・データ	10,000	4,020.00	40,200,000
コナミ	10,000	2,124.00	21,240,000
ソフトバンク	30,000	7,509.00	225,270,000
双日	1,000	160.00	160,000
伊藤忠商事	10,000	1,295.00	12,950,000
丸紅	10,000	686.00	6,860,000
豊田通商	10,000	2,561.00	25,610,000
三井物産	10,000	1,613.50	16,135,000
住友商事	10,000	1,158.50	11,585,000
三菱商事	10,000	2,084.00	20,840,000
J．フロント リテイリング	5,000	1,399.00	6,995,000
三越伊勢丹ホールディングス	10,000	1,413.00	14,130,000
セブン&アイ・ホールディングス	10,000	4,125.00	41,250,000
高島屋	10,000	893.00	8,930,000
丸井グループ	10,000	871.00	8,710,000
イオン	10,000	1,046.50	10,465,000
ユニグループ・ホールディングス	10,000	568.00	5,680,000
ファーストリテイリング	10,000	36,940.00	369,400,000
新生銀行	10,000	229.00	2,290,000
あおぞら銀行	10,000	380.00	3,800,000
三菱UFJフィナンシャル・グループ	10,000	599.00	5,990,000
りそなホールディングス	1,000	604.00	604,000
三井住友トラスト・ホールディングス	10,000	409.30	4,093,000
三井住友フィナンシャルグループ	1,000	4,082.00	4,082,000
千葉銀行	10,000	731.00	7,310,000
横浜銀行	10,000	587.00	5,870,000
ふくおかフィナンシャルグループ	10,000	518.00	5,180,000
静岡銀行	10,000	1,040.00	10,400,000
みずほフィナンシャルグループ	10,000	191.80	1,918,000
大和証券グループ本社	10,000	795.10	7,951,000
野村ホールディングス	10,000	636.40	6,364,000
松井証券	10,000	954.00	9,540,000
損保ジャパン日本興亜ホールディングス	2,500	2,582.50	6,456,250
MS & A Dインシュアランスグループ ホールディングス	3,000	2,205.00	6,615,000
ソニーフィナンシャルホールディングス	2,000	1,668.00	3,336,000
第一生命保険	1,000	1,537.00	1,537,000
東京海上ホールディングス	5,000	3,320.50	16,602,500
T & Dホールディングス	2,000	1,306.00	2,612,000

	クレディセゾン	10,000	2,062.00	20,620,000	
	東急不動産ホールディングス	10,000	683.00	6,830,000	
	三井不動産	10,000	3,130.00	31,300,000	
	三菱地所	10,000	2,376.00	23,760,000	
	平和不動産	2,000	1,621.00	3,242,000	
	東京建物	10,000	825.00	8,250,000	
	住友不動産	10,000	3,585.50	35,855,000	
	電通	10,000	3,865.00	38,650,000	
	東京ドーム	10,000	428.00	4,280,000	
	セコム	10,000	6,264.00	62,640,000	
日本・円	小計	2,083,500		3,960,680,750	
	銘柄数	223			
	組入時価比率	92.2%		100.0%	
合計		2,083,500		3,960,680,750	

(注1) 比率は左より組入時価の純資産総額に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

(2) 株式以外の有価証券  
該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表  
該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表  
「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。

## 2 【ファンドの現況】

【純資産額計算書】（平成26年10月31日現在）

## インデックスミリオン

資産総額（円）	4,132,635,467
負債総額（円）	1,147,072
純資産総額（ - ）（円）	4,131,488,395
発行済口数（口）	7,440,954,849
1口当たり純資産額（ / ）（円）	0.5552

## ボンドミックスミリオン

資産総額（円）	825,859,851
負債総額（円）	9,111,751
純資産総額（ - ）（円）	816,748,100
発行済口数（口）	975,581,704
1口当たり純資産額（ / ）（円）	0.8372

## （参考）ミリオン・インデックスマザーファンド

資産総額（円）	4,555,604,965
負債総額（円）	
純資産総額（ - ）（円）	4,555,604,965
発行済口数（口）	4,665,239,387
1口当たり純資産額（ / ）（円）	0.976

## 第4 【内国投資信託受益証券事務の概要】

### (1) 受益証券の名義書換手続等

各ファンドの受益権は、振替制度における振替受益権であるため、委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。ファンドの振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

### (2) 受益者名簿の閉鎖の時期

委託会社は受益者名簿を作成しません。

### (3) 受益者に対する特典

ありません。

### (4) 譲渡制限および譲渡の対抗要件

譲渡制限はありません。ただし、受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

### (5) 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

前記の申請のある場合には、前記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

前記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

### (6) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割することができます。

### (7) 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取

得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者（とします。）に支払います。

(8) 質権口記載または記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

## 第二部 【委託会社等の情報】

### 第1 【委託会社等の概況】

#### 1 【委託会社等の概況】

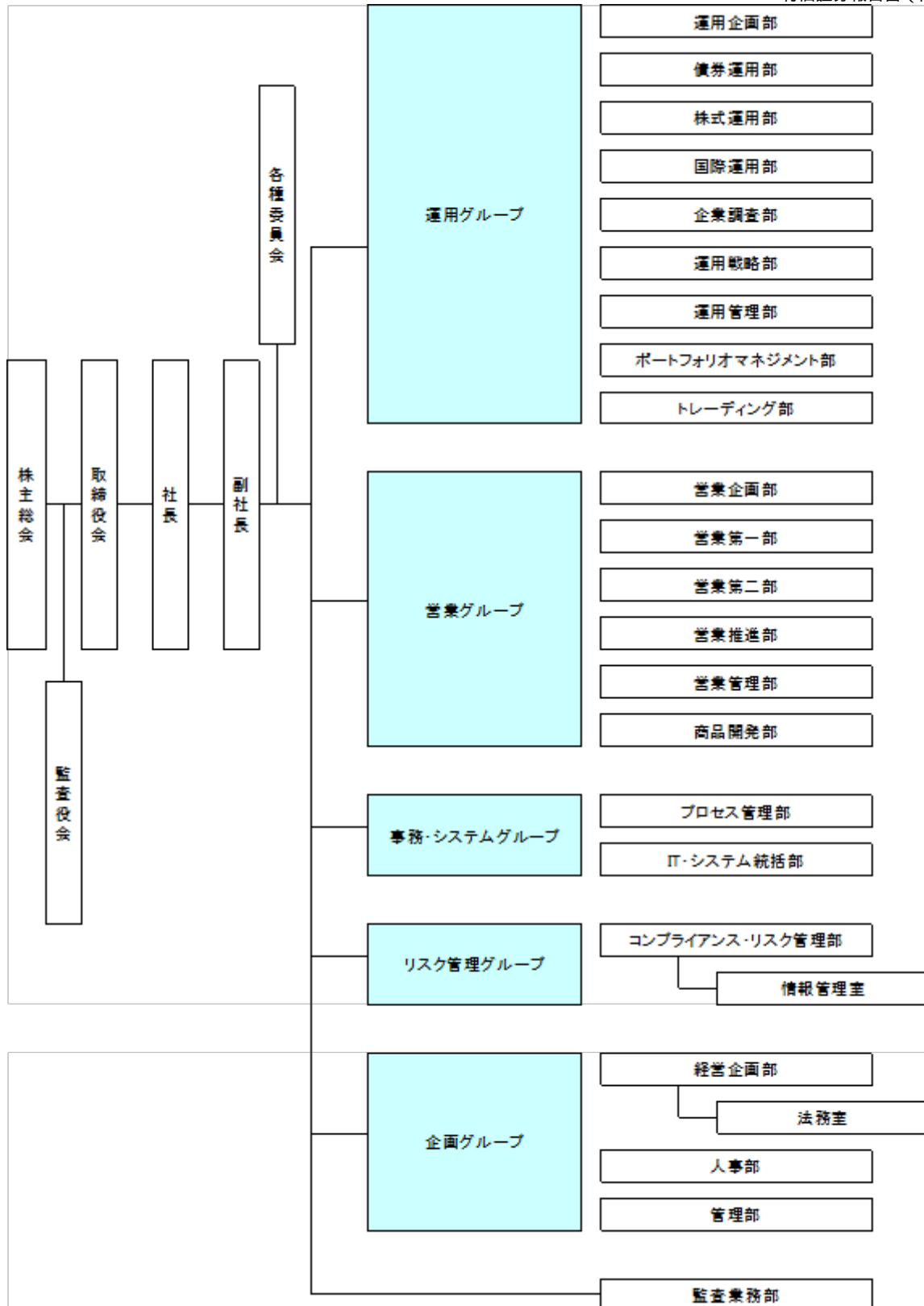
##### (1) 資本金の額

平成26年10月末日現在	資本金	20億4,560万円
	発行する株式の総数	200万株
	発行済株式の総数	1,052,070株

過去5年間における資本金の額の増減はありません。

##### (2) 会社の機構(平成26年10月末日現在)

会社の組織図



## 運用の基本プロセス

### 1 運用に関する会議および委員会

#### a 運用の基本計画決定に関する会議

運用グループ長または運用グループ長が指名する運用グループの役職員が原則月1回開催する運用会議で、各ファンドの運用に関する基本計画を決定します。

#### b 運用実績の評価、モニタリングに関する委員会

リスク管理グループ長を委員長として原則3ヵ月に1回開催される運用評価委員会で運用実績の審議・評価を行います。

また、同じくリスク管理グループ長を委員長として原則3ヵ月に1回開催されるコンプライアンス委員会で、法令・約款、運用ガイドラインなど社内諸規則に照らした運用内容のモニタリング結果を審議します。

## 2 運用の流れ

### a ファンドの運用に関する基本計画の決定

各運用会議は、運用担当者が作成する資産配分、各資産内での主要投資対象等に関するファンドごとの月次の運用に関する基本計画の原案を審議し決定します。

### b ファンドの具体的な運用計画の作成

運用担当者は、運用に関する基本計画にそって具体的な売買予定銘柄、数量等の月次の売買計画を作成します。

### c 売買の実行指図

運用担当者は、売買計画に基づいて日々の売買の実行を指図します。

## 2 【事業の内容及び営業の概況】

当社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として、投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として、その運用（投資運用業）ならびにその受益証券（受益権）の募集又は私募（第二種金融商品取引業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める投資一任契約に基づく運用（投資運用業）および投資助言業務を行っています。

平成26年10月31日現在、当社の投資信託は以下の通りです。

基本的性格	本数	純資産総額(円)
追加型公社債投資信託	15	336,417,197,497
追加型株式投資信託	238	2,074,062,807,534
追加型金銭信託受益権投資信託	8	5,222,913,634
単位型株式投資信託	9	25,731,103,732
合計	270	2,441,434,022,397

## 3 【委託会社等の経理状況】

1 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定により「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

なお、当事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条及び第57条の規定により「金融商品取引業等に関する内閣府令」に基づいて作成しております。



2 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第51期事業年度（自平成25年4月1日至平成26年3月31日）の財務諸表について新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第52期中間会計期間（自平成26年4月1日至平成26年9月30日）の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人の中間監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

(単位： 千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,268,024	3,545,563
短期貸付金	16,195,635	16,597,222
前払費用	253,250	183,438
未収入金	1,119,715	-
未収委託者報酬	1,517,926	1,470,180
未収運用受託報酬	709,038	1,321,564
繰延税金資産	168,605	188,902
その他流動資産	165,346	196,162
貸倒引当金	7,816	5,816
<b>流動資産合計</b>	<b>22,389,725</b>	<b>23,497,217</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物（純額）	167,960	137,028
工具、器具及び備品（純額）	93,706	72,964
リース資産（純額）	3,943	4,898
<b>有形固定資産合計</b>	<b>1 265,610</b>	<b>1 214,891</b>
<b>無形固定資産</b>		
電話加入権	12,747	12,747
その他無形固定資産	133	95
<b>無形固定資産合計</b>	<b>1 12,880</b>	<b>1 12,842</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2,708,128	2,826,706
長期差入保証金	514,642	502,361
前払年金費用	263,427	357,258
会員権	17,200	8,400
繰延税金資産	63,011	75,535
その他	15,565	2,618
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>3,581,975</b>	<b>3,772,878</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>3,860,466</b>	<b>4,000,612</b>
<b>資産合計</b>	<b>26,250,191</b>	<b>27,497,829</b>
<b>負債の部</b>		

流動負債		
預り金	375,742	276,070
リース債務	3,023	3,838
未払金		
未払収益分配金	901	827
未払償還金	28,656	27,355
未払手数料	650,405	651,486
その他未払金	10,777	15,090
未払金合計	690,740	694,760
未払費用	1,146,683	1,677,557
未払法人税等	18,987	429,878
未払消費税等	62,693	88,739
賞与引当金	347,800	305,900
その他流動負債	5,121	5,881
流動負債合計	2,650,793	3,482,625
固定負債		
リース債務	7,296	6,417
役員退職慰労引当金	178,410	149,446
時効後支払損引当金	16,905	13,720
その他固定負債	6,951	3,213
固定負債合計	209,562	172,796
負債合計	2,860,356	3,655,422
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,045,600	2,045,600
資本剰余金		
資本準備金	2,266,400	2,266,400
その他資本剰余金	2,450,074	2,450,074
資本剰余金合計	4,716,474	4,716,474
利益剰余金		
利益準備金	128,584	128,584
その他利益剰余金		
配当準備積立金	104,600	104,600
退職慰労積立金	100,000	100,000
別途積立金	9,800,000	9,800,000
繰越利益剰余金	6,515,116	6,988,395
利益剰余金合計	16,648,301	17,121,579
株主資本合計	23,410,376	23,883,654
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	20,541	41,248
評価・換算差額等合計	20,541	41,248
純資産合計	23,389,835	23,842,406
負債純資産合計	26,250,191	27,497,829

## （ 2 ） 【 損益計算書 】

（ 単位： 千円 ）

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
営業収益		
委託者報酬	15,739,580	16,375,163
運用受託報酬	2,401,288	3,587,945
営業収益合計	18,140,869	19,963,108
営業費用		
支払手数料	7,426,160	7,780,375
広告宣伝費	149,566	263,900
公告費	152	76
調査費		
調査費	948,113	1,292,601
委託調査費	3,624,517	4,323,525
図書費	7,229	4,666
調査費合計	4,579,861	5,620,793
委託計算費	177,505	178,878
営業雑経費		
通信費	50,112	60,623
印刷費	167,179	174,012
協会費	18,816	18,378
諸会費	2,689	2,523
その他	37,963	574,210
営業雑経費合計	276,761	829,747
営業費用合計	12,610,006	14,673,771
一般管理費		
給料		
役員報酬	141,073	136,969
給料手当	2,204,883	1,875,653
賞与	333,923	286,984
給料合計	2,679,880	2,299,607
交際費	707	975
旅費交通費	67,470	65,596
租税公課	50,223	50,531
不動産賃借料	421,877	422,294
退職給付費用	165,171	120,603
福利厚生費	409,033	362,963
貸倒引当金繰入	6,943	-
賞与引当金繰入	347,800	305,154
役員退職慰労引当金繰入	39,522	26,354
固定資産減価償却費	51,898	39,685
諸経費	310,561	396,680
一般管理費合計	4,551,091	4,090,447
営業利益	979,771	1,198,889
営業外収益		
受取配当金	1,032	4,071

受取利息	12,757	11,663
有価証券解約益	1,437	303
有価証券償還益	1,387	11
時効到来償還金等	1,576	1,537
雑収入	17,474	9,772
営業外収益合計	35,666	27,360
営業外費用		
有価証券解約損	118,238	140
有価証券償還損	160,957	2,310
ヘッジ会計に係る損失	38	1,832
時効後支払損引当金繰入額	2,481	-
雑損失	2,148	3,398
営業外費用合計	283,864	7,682
経常利益	731,573	1,218,567
特別損失		
投資有価証券売却損	22,844	-
遊休資産売却損	3,932	-
減損損失	-	1 18,257
ゴルフ会員権評価損	-	8,800
特別損失合計	26,776	27,057
税引前当期純利益	704,796	1,191,509
法人税、住民税及び事業税	193,759	506,024
法人税等調整額	42,020	21,353
法人税等合計	235,779	484,671
当期純利益	469,017	706,838

## (3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	2,045,600	2,266,400	2,450,074	4,716,474
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計				
当期末残高	2,045,600	2,266,400	2,450,074	4,716,474

	株主資本						
	利益剰余金					利益剰余金合計	株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金					
		配当準備積立金	退職慰労積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		

当期首残高	128,584	104,600	100,000	9,800,000	6,365,928	16,499,113	23,261,188
当期変動額							
剰余金の配当					319,829	319,829	319,829
当期純利益					469,017	469,017	469,017
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計					149,188	149,188	149,188
当期末残高	128,584	104,600	100,000	9,800,000	6,515,116	16,648,301	23,410,376

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	159,879	159,879	23,101,308
当期変動額			
剰余金の配当			319,829
当期純利益			469,017
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	139,338	139,338	139,338
当期変動額合計	139,338	139,338	288,526
当期末残高	20,541	20,541	23,389,835

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	2,045,600	2,266,400	2,450,074	4,716,474
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計				
当期末残高	2,045,600	2,266,400	2,450,074	4,716,474

	株主資本						株主資本合計
	利益剰余金					利益剰余金合計	
	利益準備金	その他利益剰余金					
		配当準備積立金	退職慰労積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	128,584	104,600	100,000	9,800,000	6,515,116	16,648,301	23,410,376
当期変動額							
剰余金の配当					233,559	233,559	233,559
当期純利益					706,838	706,838	706,838
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							

当期変動額合計					473,278	473,278	473,278
当期末残高	128,584	104,600	100,000	9,800,000	6,988,395	17,121,579	23,883,654

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	20,541	20,541	23,389,835
当期変動額			
剰余金の配当			233,559
当期純利益			706,838
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	20,707	20,707	20,707
当期変動額合計	20,707	20,707	452,571
当期末残高	41,248	41,248	23,842,406

## 重要な会計方針

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

#### その他有価証券

#### 時価のあるもの

決算日の市場価格に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

#### 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

### 2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

### 3. 固定資産の減価償却方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法）を採用しております。

#### (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

#### (3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定率法を採用しております。

### 4. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

当社の自己査定基準に基づき、一般債権については予想損失率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払いに備えるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。

#### (3) 退職給付引当金（前払年金費用）

従業員に対する退職給付に備えるため、決算日における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、決算日において発生していると認められる額を計上しております。

#### (4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支給に備えて、内規に基づく期末要支給額を計上しております。（執行役員に対する退職慰労引当金を含む。）

#### (5) 時効後支払損引当金

時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。

### 5. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

## 6. ヘッジ会計の方法

## (1) ヘッジ会計の方法

時価ヘッジによっております。

## (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段... 株価指数先物取引

ヘッジ対象... 有価証券

## (3) ヘッジ方針

当社が保有する有価証券の投資リスクを低減させるためにヘッジ取引を行っております。

## (4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ対象とヘッジ手段の価格変動の相関関係を継続的に計測してヘッジの有効性を評価しております。

## 7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

## 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## 注記事項

## (貸借対照表関係)

前事業年度 (平成25年3月31日)		当事業年度 (平成26年3月31日)	
1	有形固定資産及び無形固定資産の減価償却累計額	1	有形固定資産及び無形固定資産の減価償却累計額
	建物		建物
	165,761千円		160,134千円
	工具、器具及び備品		工具、器具及び備品
	346,701千円		341,459千円
	リース資産		リース資産
	21,452千円		23,744千円
	ソフトウェア		ソフトウェア
	670千円		670千円
	その他無形固定資産		その他無形固定資産
	712千円		451千円

## (損益計算書関係)

## 1 減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額(千円)
本社(東京都港区)	除却対象資産	建物	15,455
本社(東京都港区)	除却対象資産	工具器具備品	2,802

賃貸借契約の一部解約により現行オフィス内部造作等の除却が決定した資産につき、「除却対象資産」としてグルーピングを行い、平成26年3月31日時点の帳簿価額を減損損失(18,257千円)として特別損失に計上しました。

## (株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	1,052,070	-	-	1,052,070

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

平成24年6月12日の第49回定時株主総会において、次のとおり決議しております。

## ・普通株式の配当に関する事項

1) 配当金の総額	319,829,280円
2) 1株当たり配当額	304円

3) 基準日	平成24年3月31日
4) 効力発生日	平成24年6月13日
(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの	
平成25年6月12日の第50回定時株主総会において、次のとおり決議しております。	
・普通株式の配当に関する事項	
1) 配当金の総額	233,559,540円
2) 配当の原資	利益剰余金
3) 1株当たり配当額	222円
4) 基準日	平成25年3月31日
5) 効力発生日	平成25年6月13日

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	1,052,070	-	-	1,052,070

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

平成25年6月12日の第50回定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

1) 配当金の総額	233,559,540円
2) 1株当たり配当額	222円
3) 基準日	平成25年3月31日
4) 効力発生日	平成25年6月13日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成26年6月11日の第51回定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

1) 配当金の総額	352,443,450円
2) 配当の原資	利益剰余金
3) 1株当たり配当額	335円
4) 基準日	平成26年3月31日
5) 効力発生日	平成26年6月12日

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、事務用機器及び車両運搬具であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業を行っており、余資運用については、安全性の高い金融資産で運用しております。

デリバティブは、当社が保有する特定の有価証券の投資リスクを低減させる目的で利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、相手先の信用リスクに晒されております。また、投資有価証券は、当社業務運営に関連する株式、投資信託であります。これらは、それぞれ発行体の



信用リスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。短期貸付金、未収入金、長期差入保証金は、相手先の信用リスクに晒されております。

営業債務である未払手数料は、1年以内の支払期日であります。

デリバティブ取引には株価指数先物取引があり、その他有価証券で保有する投資信託の価格変動を相殺する目的で行い、ヘッジ対象に係る損益を認識する方法(時価ヘッジ)を適用しています。なお、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間においてヘッジ手段とヘッジ対象の価格変動の相関関係を継続的に計測する事によりヘッジの有効性を評価しております。

### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

#### 信用リスクの管理

営業債権の相手先の信用リスクに関しては、当社の信用リスク管理の基本方針に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な相手先の信用状況を半期ごとに把握する体制としています。

有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクに関しては、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しています。

#### 市場リスクの管理

有価証券を含む金融商品の保有については、当社の市場リスク管理の基本方針(自己資金運用)に従い、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、価格変動リスクの軽減を図っています。デリバティブ取引に関しては、取引の執行、ヘッジの有効性の評価に関する部門を分離し、内部統制を確立しております。

### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価は、市場価格に基づく価額によっております。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。(注2)を参照ください。)

前事業年度(平成25年3月31日)

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,268,024	2,268,024	-
(2) 短期貸付金	16,195,635	16,195,635	-
(3) 未収入金	1,119,715	1,119,715	-
(4) 未収委託者報酬	1,517,926	1,517,926	-
(5) 未収運用受託報酬	709,038	709,038	-
(6) 投資有価証券			
その他有価証券	2,641,608	2,641,608	-
(7) 長期差入保証金	514,642	514,559	83
資産計	24,966,590	24,966,507	83
(1) 未払手数料	650,405	650,405	-
負債計	650,405	650,405	-
デリバティブ取引(1)			
ヘッジ会計が適用されているもの	8,614	8,614	-

(1) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しております。

当事業年度(平成26年3月31日)

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	3,545,563	3,545,563	-
(2) 短期貸付金	16,597,222	16,597,222	-
(3) 未収委託者報酬	1,470,180	1,470,180	-
(4) 未収運用受託報酬	1,321,564	1,321,564	-
(5) 投資有価証券			
その他有価証券	2,760,186	2,760,186	-

( 6 ) 長期差入保証金	502,361	501,871	489
資産計	26,197,078	26,196,589	489
( 1 ) 未払手数料	651,486	651,486	-
負債計	651,486	651,486	-
デリバティブ取引( 1 ) ヘッジ会計が適用されているもの	( 595 )	( 595 )	-

( 1 ) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

( 1 ) 現金及び預金

預金については、すべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

( 2 ) 短期貸付金、( 3 ) 未収委託者報酬及び( 4 ) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

( 5 ) 投資有価証券

これらの時価について、投資信託は公表されている基準価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

( 6 ) 長期差入保証金

当社では、長期差入保証金の時価の算定は、その将来キャッシュフローを、国債の利回り等適切な指標で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

( 1 ) 未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位:千円)

区分	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
非上場株式	66,520	66,520

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「( 5 ) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成25年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預金	2,267,697	-	-	-	-	-
短期貸付金	16,195,635	-	-	-	-	-
未収入金	1,119,715	-	-	-	-	-
未収委託者報酬	1,517,926	-	-	-	-	-
未収運用受託報酬	709,038	-	-	-	-	-
投資有価証券						
その他有価証券のうち 満期のあるもの						
証券投資信託	-	-	-	-	15,335	2,130,846
長期差入保証金	514,642	-	-	-	-	-
合計	22,324,656	-	-	-	15,335	2,130,846

当事業年度（平成26年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預金	3,544,827	-	-	-	-	-
短期貸付金	16,597,222	-	-	-	-	-
未収委託者報酬	1,470,180	-	-	-	-	-
未収運用受託報酬	1,321,564	-	-	-	-	-
投資有価証券						
その他有価証券のうち 満期のあるもの						
証券投資信託	-	-	-	4,168	-	2,214,706
長期差入保証金	502,361	-	-	-	-	-
合計	23,436,156	-	-	4,168	-	2,214,706

(有価証券関係)

## 1 その他有価証券

前事業年度(平成25年3月31日)

種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
証券投資信託	216,164	207,889	8,275
小計	216,164	207,889	8,275
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
証券投資信託	2,425,444	2,465,635	40,191
小計	2,425,444	2,465,635	40,191
合計	2,641,608	2,673,524	31,915

当事業年度(平成26年3月31日)

種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
証券投資信託	392,200	367,480	24,719
小計	392,200	367,480	24,719
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
証券投資信託	2,367,985	2,456,795	88,809
小計	2,367,985	2,456,795	88,809
合計	2,760,186	2,824,276	64,089

## 2 当事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	161,410	-	21,884
債券	-	-	-
証券投資信託	-	-	-
合計	161,410	-	21,884

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

該当するものではありません。

## 3 当事業年度中に解約・償還したその他有価証券

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	解約・償還額(千円)	解約・償還益の合計額(千円)	解約・償還損の合計額(千円)
株式	-	-	-
債券	-	-	-
証券投資信託	3,040,519	2,825	279,196
合計	3,040,519	2,825	279,196

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

種類	解約・償還額(千円)	解約・償還益の合計額(千円)	解約・償還損の合計額(千円)
株式	-	-	-
債券	-	-	-
証券投資信託	164,391	314	2,451
合計	164,391	314	2,451

## (デリバティブ取引関係)

## 1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当するものではありません。

## 2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

株式関連

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額のうち1年超(千円)	時価(千円)
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	株価指数先物取引				
	売建	投資有価証券	79,849	-	6,951
	買建	投資有価証券	272,890	-	15,565
合計			352,739	-	8,614

(注) 時価の算定方法

取引所の価格に基づき算定しております。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額のうち1年超(千円)	時価(千円)

ヘッジ対象に係る 損益を認識する方 法	株価指数先物取引	投資有価証券 投資有価証券	106,344	-	2,534
	売建 買建		252,129	-	3,129
合計			358,473	-	595

(注) 時価の算定方法

取引所の価格に基づき算定しております。

(退職給付関係)

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として企業型確定拠出年金制度を設けております。

2 退職給付債務に関する事項

	前事業年度 (平成25年3月31日)
(1) 退職給付債務(千円)	805,634
(2) 年金資産(千円)	1,069,061
(3) 退職給付引当金(千円)	
(4) 前払年金費用(千円)	263,427

(注1) 当社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法(在籍する従業員については退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とし、年金受給者及び待機者については直近の年金財政計算上の責任準備金の額を退職給付債務とする方法)を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
(1) 勤務費用(千円)	165,171 (注1)
(2) 退職給付費用(千円)	165,171

(注1) 確定拠出型制度の退職給付費用21,784千円を含めております。

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として企業型確定拠出年金制度を設けております。

当社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	263,427千円
退職給付費用	49,885
退職給付の支払額	4,008
制度への拠出額	139,708
退職給付引当金の期末残高	357,258

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務

843,869千円

年金資産	1,201,127
貸借対照表に計上された前払年金費用	357,258

## (3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	49,885千円
----------------	----------

## 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、17,406千円であります。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
有価証券償却超過額	17,486千円	17,486千円
ソフトウェア償却超過額	63,338千円	89,477千円
賞与引当金損金算入限度超過額	132,198千円	109,022千円
社会保険料損金不算入額	18,577千円	15,513千円
役員退職慰労引当金	67,813千円	53,262千円
未払事業税	6,439千円	32,931千円
その他有価証券評価差額金	11,374千円	22,841千円
その他	40,726千円	85,682千円
繰延税金資産小計	357,956千円	426,218千円
評価性引当額	32,453千円	34,454千円
繰延税金資産合計	325,502千円	391,764千円
繰延税金負債		
前払年金費用	93,885千円	127,327千円
繰延税金負債合計	93,885千円	127,327千円
繰延税金資産の純額	231,617千円	264,437千円

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	38.01%	38.01%
(調整)		
評価性引当額	4.86%	0.17%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.27%	0.48%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.02%	0.01%
住民税等均等割	0.54%	0.32%

税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	1.56%
その他	0.49%	0.15%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.45%	40.68%

### 3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成26年法律第10号）が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課税されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の38.01%から35.64%になります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は18,630千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

#### (資産除去債務関係)

当社は建物所有者との間で不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約及び法令上の資産除去債務を認識しております。

なお、当該賃貸借契約に関連する長期差入保証金（敷金）が計上されているため、資産除去債務の負債計上に代えて、当該敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当期の負担に属する金額を費用計上し、直接減額しております。

#### (セグメント情報等)

##### [セグメント情報]

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

##### [関連情報]

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

##### 1. 製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品及びサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

##### 2. 地域ごとの情報

###### (1) 売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

###### (2) 有形固定資産

有形固定資産はすべて本邦に所在しております。

##### 3. 主要な顧客ごとの情報

委託者報酬については、当社が運用している投資信託は大半が公募投信であり、委託者報酬を最終的に負担する受益者は不特定多数であるため、記載を省略しております。

運用受託報酬については、外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

##### [報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

#### (関連当事者情報)

##### 1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)

同一の親会社をもつ会社	株式会社みずほ銀行	東京都千代田区	700,000 百万円	銀行業	なし	投資信託の販売	支払手数料	3,580,183	未払手数料	299,089
同一の親会社をもつ会社	みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区	247,369 百万円	信託 銀行業	なし	信託財産の管理	委託者報酬	10,238,105	未収委託者報酬	1,310,737

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社をもつ会社	株式会社みずほ銀行	東京都千代田区	14,040 億円	銀行業	なし	投資信託の販売	支払手数料	3,633,008	未払手数料	316,753
同一の親会社をもつ会社	みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区	2,473 億円	信託 銀行業	なし	信託財産の管理	委託者報酬	12,233,240	未収委託者報酬	1,284,975

- (注) 1. 株式会社みずほコーポレート銀行は、平成25年7月1日付で株式会社みずほ銀行を吸収合併し、株式会社みずほ銀行に商号変更しております。また、株式会社みずほ銀行との取引金額には、平成25年4月1日から平成25年6月30日までの期間の合併前の株式会社みずほ銀行との取引金額を含めております。
2. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
3. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
一般取引条件と同様に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

株式会社みずほフィナンシャルグループ

(東京証券取引所及びニューヨーク証券取引所に上場)

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
1株当たり純資産額	22,232.20円	1株当たり純資産額	22,662.37円
1株当たり当期純利益金額	445.80円	1株当たり当期純利益金額	671.85円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。	
(1株当たり当期純利益の算定上の基礎)		(1株当たり当期純利益の算定上の基礎)	
損益計算書上の当期純利益	469,017千円	損益計算書上の当期純利益	706,838千円
普通株式に係る当期純利益	469,017千円	普通株式に係る当期純利益	706,838千円
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。		普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。	
普通株式の期中平均株式数	1,052,070株	普通株式の期中平均株式数	1,052,070株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(4) 中間貸借対照表

(単位： 千円)



第52期中間会計期間  
(平成26年9月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	19,533,066
未収委託者報酬	1,686,580
未収運用受託報酬	1,865,333
繰延税金資産	197,238
その他	274,395
貸倒引当金	1,065
流動資産合計	23,555,548
固定資産	
有形固定資産	
建物（純額）	155,053
工具、器具及び備品（純額）	77,017
リース資産（純額）	2,986
有形固定資産合計	1 235,056
無形固定資産	
12,827	
投資その他の資産	
投資有価証券	3,030,128
その他	790,237
投資その他の資産合計	3,820,365
固定資産合計	4,068,249
資産合計	27,623,797
負債の部	
流動負債	
リース債務	2,602
未払金	900,438
未払費用	1,615,916
未払法人税等	232,726
賞与引当金	306,200
その他	331,569
流動負債合計	3,389,452
固定負債	
リース債務	3,424
繰延税金負債	21,849
役員退職慰労引当金	107,871
時効後支払損引当金	7,344
その他	7,093
固定負債合計	147,581
負債合計	3,537,033
純資産の部	
株主資本	
資本金	2,045,600
資本剰余金	

資本準備金	2,266,400
その他資本剰余金	2,450,074
資本剰余金合計	4,716,474
利益剰余金	
利益準備金	128,584
その他利益剰余金	
配当準備積立金	104,600
退職慰労積立金	100,000
別途積立金	9,800,000
繰越利益剰余金	7,184,439
利益剰余金合計	17,317,624
株主資本合計	24,079,699
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	7,063
評価・換算差額等合計	7,063
純資産合計	24,086,763
負債純資産合計	27,623,797

## (5) 中間損益計算書

(単位： 千円)

第52期中間会計期間  
(自 平成26年4月1日  
至 平成26年9月30日)

営業収益		
委託者報酬		8,602,664
運用受託報酬		2,019,713
営業収益合計		10,622,378
営業費用及び一般管理費	1	9,712,296
営業利益		910,082
営業外収益		
受取配当金		4,669
受取利息		3,580
有価証券解約益		121
時効到来償還金等		16,953
雑収入		47,348
営業外収益合計		72,673
営業外費用		
雑損失		36,831
営業外費用合計		36,831
経常利益		945,924
特別利益		
投資有価証券売却益		10,500
特別利益合計		10,500
特別損失		
事業再構築費用	2	125,173
特別損失合計		125,173
税引前中間純利益		831,250

法人税、住民税及び事業税	220,468
法人税等調整額	62,294
法人税等合計	282,763
中間純利益	548,487

## (6) 中間株主資本等変動計算書

第52期中間会計期間(自 平成26年4月1日至 平成26年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	2,045,600	2,266,400	2,450,074	4,716,474
当中間期変動額				
剰余金の配当				
中間純利益				
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）				
当中間期変動額合計				
当中間期末残高	2,045,600	2,266,400	2,450,074	4,716,474

	株主資本						株主資本合計
	利益準備金	利益剰余金				利益剰余金合計	
		その他利益剰余金					
	配当準備積立金	退職慰労積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	128,584	104,600	100,000	9,800,000	6,988,395	17,121,579	23,883,654
当中間期変動額							
剰余金の配当					352,443	352,443	352,443
中間純利益					548,487	548,487	548,487
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）							
当中間期変動額合計					196,044	196,044	196,044
当中間期末残高	128,584	104,600	100,000	9,800,000	7,184,439	17,317,624	24,079,699

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	41,248	41,248	23,842,406
当中間期変動額			
剰余金の配当			352,443
中間純利益			548,487
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	48,312	48,312	48,312
当中間期変動額合計	48,312	48,312	244,356
当中間期末残高	7,063	7,063	24,086,763

## 重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法  
    その他有価証券  
    時価のあるもの  
        中間決算日の市場価格に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。  
    時価のないもの  
        移動平均法による原価法を採用しております。
2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法  
    時価法を採用しております。
3. 固定資産の減価償却方法
  - (1) 有形固定資産（リース資産を除く）  
        定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法）を採用しております。
  - (2) 無形固定資産  
        定額法を採用しております。
  - (3) リース資産  
        リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定率法を採用しております。
4. 引当金の計上基準
  - (1) 貸倒引当金  
        当社の自己査定基準に基づき、一般債権については予想損失率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
  - (2) 賞与引当金  
        従業員に対する賞与の支払いに備えるため、将来の支給見込額のうち当中間会計期間の負担額を計上しております。
  - (3) 退職給付引当金（前払年金費用）  
        従業員に対する退職給付に備えるため、中間決算日における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、中間決算日において発生していると認められる額を計上しております。
  - (4) 役員退職慰労引当金  
        役員退職慰労金の支給に備えて、内規に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。（執行役員に対する退職慰労引当金を含む。）
  - (5) 時効後支払損引当金  
        時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。
5. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準  
    外貨建金銭債権債務は、中間決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
6. ヘッジ会計の方法
  - (1) ヘッジ会計の方法  
        時価ヘッジによっております。
  - (2) ヘッジ手段とヘッジ対象  
        ヘッジ手段...株価指数先物取引  
        ヘッジ対象...有価証券
  - (3) ヘッジ方針  
        当社が保有する有価証券の投資リスクを低減させるためにヘッジ取引を行っております。
  - (4) ヘッジの有効性評価の方法  
        ヘッジ対象とヘッジ手段の価格変動の相関関係を継続的に計測してヘッジの有効性を評価しております。
7. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項  
    消費税等の会計処理  
        消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## 注記事項

## （中間貸借対照表関係）

	第52期中間会計期間 (平成26年9月30日)
1 有形固定資産の減価償却累計額	518,045千円

## （中間損益計算書関係）

	第52期中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	
1 減価償却実施額	有形固定資産 無形固定資産	14,391千円 15千円
2 事業再構築費用	事業再構築に伴うグループ会社への転籍関連費用	

## （中間株主資本等変動計算書関係）

第52期中間会計期間（自 平成26年4月1日至 平成26年9月30日）

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式（株）	1,052,070	-	-	1,052,070

## 2 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成26年6月11日 定時株主総会	普通株式	352,443千円	335円	平成26年3月31日	平成26年6月12日

## （リース取引関係）

## 1. ファイナンス・リース取引（借主側）

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、事務用機器及び車両運搬具であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。

## （金融商品関係）

第52期中間会計期間(平成26年9月30日)

## 金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。（（注2）を参照ください。）

（単位：千円）

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	19,533,066	19,533,066	-
(2) 未収委託者報酬	1,686,580	1,686,580	-
(3) 未収運用受託報酬	1,865,333	1,865,333	-
(4) 投資有価証券 その他有価証券	2,969,408	2,969,408	-
資産計	26,054,388	26,054,388	-
デリバティブ取引（1） ヘッジ会計が適用されていないもの	(3,887)	(3,887)	-

ヘッジ会計が適用されているもの	4,143	4,143	-
デリバティブ取引計	256	256	-

( 1 ) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については( )で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

#### 資産

( 1 ) 現金及び預金

預金については、すべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

( 2 ) 未収委託者報酬及び( 3 ) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

( 4 ) 投資有価証券

これらの時価について、投資信託は公表されている基準価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

#### デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間貸借対照表計上額

区分	中間貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	60,720

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「( 4 ) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

(有価証券関係)

第52期中間会計期間(平成26年9月30日)

1 その他有価証券

種類	中間貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
証券投資信託	575,185	518,416	56,768
小計	575,185	518,416	56,768
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
証券投資信託	2,394,222	2,440,015	45,793
小計	2,394,222	2,440,015	45,793
合計	2,969,408	2,958,432	10,975

(デリバティブ取引関係)

第52期中間会計期間(平成26年9月30日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

株式関連

区分	取引の種類	契約額等 (千円)	契約額のうち 1年超(千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引	株価指数先物取引 売建	168,558	-	3,887	3,887
	合計	168,558	-	3,887	3,887

(注) 時価の算定方法

取引所の価格に基づき算定しております。

## （資産除去債務関係）

当社は建物所有者との間で不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約及び法令上の資産除去債務を認識しております。

なお、当該賃貸借契約に関連する長期差入保証金（敷金）が計上されているため、資産除去債務の負債計上に代えて、当該敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当期の負担に属する金額を費用計上し、直接減額しております。

## （セグメント情報等）

## 〔セグメント情報〕

第52期中間会計期間（自 平成26年4月1日至 平成26年9月30日）

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 〔関連情報〕

第52期中間会計期間（自 平成26年4月1日至 平成26年9月30日）

## 1 製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービス区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品及びサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## 2 地域ごとの情報

## （1）売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

## （2）有形固定資産

有形固定資産はすべて本邦に所在しております。

## 3 主要な顧客ごとの情報

委託者報酬については、当社が運用している投資信託は大半が公募投信であり、委託者報酬を最終的に負担する受益者は不特定多数であるため、記載を省略しております。

運用受託報酬については、損益計算書の営業収益の10%以上を占める投資一任報酬がありますが、守秘義務によりその顧客の名称に代えて種類と顧客を区別するための記号を記載しております。

顧客の種類等	営業収益（千円）	関連するセグメント名
適格機関投資家 A	1,151,145	投資運用業

## （1株当たり情報）

1株当たり純資産額は、以下のとおりであります。

第52期中間会計期間 (平成26年9月30日)	
1株当たり純資産額	22,894.63円

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

第52期中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	
1株当たり中間純利益金額	521.34円
（算定上の基礎）	
中間純利益金額（千円）	548,487
普通株主に帰属しない金額（千円）	-
普通株式に係る中間純利益金額（千円）	548,487
普通株式の期中平均株式数（株）	1,052,070

（注） 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## （重要な後発事象）

該当事項はありません。

#### 4 【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (2) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (3) 通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)および(5)において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行うこと。
- (4) 委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5) 上記(3)および(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

#### 5 【その他】

- (1) 定款の変更、事業譲渡又は事業譲受、出資の状況その他の重要事項  
該当事項はありません。
- (2) 訴訟事件その他の重要事項  
会社に重要な影響を与えることが予想される事実はありません。



## 第2 【その他の関係法人の概況】

### 1 【名称、資本金の額及び事業の内容】

名称		資本金の額 (百万円)	事業の内容
(1) 受託会社	みずほ信託銀行株式会社	247,369	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を行っています。
(2) 販売会社	みずほ証券株式会社	125,167	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
	SMB Cフレンド証券株式会社	27,270	
	上光証券株式会社	500	
	ふくおか証券株式会社	2,198	
	マネックス証券株式会社	12,200	
	八幡証券株式会社	2,000	

(注) 資本金の額について・・・平成26年3月末日現在

### 2 【関係業務の概要】

#### (1) 受託会社

ファンドの受託会社として、信託財産を保管・管理し、受益権設定にかかる振替機関への通知等を行います。

#### (2) 販売会社

ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求の受付けならびに収益分配金の再投資、償還金および一部解約金の支払等を行います。

### 3 【資本関係】（持株比率5.0%以上を記載します。）

平成27年1月29日現在、該当事項はありません。

#### < 参考：再信託受託会社の概要 >

名称：資産管理サービス信託銀行株式会社

業務の概要：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的：原信託契約にかかる信託業務の一部(信託財産の管理)を原信託受託会社から再信託受託会社(資産管理サービス信託銀行株式会社)へ委託するため、原信託財産の全てを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

### 第3 【参考情報】

下記の書類が関東財務局長に提出されております。

平成26年 1月29日 有価証券報告書

平成26年 1月29日 有価証券届出書

平成26年 7月29日 半期報告書

平成26年 7月29日 有価証券届出書の訂正届出書

## 独立監査人の監査報告書

平成26年6月11日

みずほ投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員	公認会計士	江見	睦生	印
業務執行社員				
指定有限責任社員	公認会計士	福村	寛	印
業務執行社員				

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているみずほ投信投資顧問株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第51期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、みずほ投信投資顧問株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1.上記は、当社が監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2.XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成26年12月5日

みずほ投信投資顧問株式会社

取締役会 御 中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員

公認会計士 市瀬 俊司 印

業務執行社員

指定有限責任社員

公認会計士 福村 寛 印

業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているインデックスミリオンの平成25年10月30日から平成26年10月29日までの第27期計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、インデックスミリオンの平成26年10月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

みずほ投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1.上記は、当社が監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成26年12月5日

みずほ投信投資顧問株式会社

取締役会 御 中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員

公認会計士 市瀬 俊司 印

業務執行社員

指定有限責任社員

公認会計士 福村 寛 印

業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているボンドミックスミリオンの平成25年10月30日から平成26年10月29日までの第27期計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ボンドミックスミリオンの平成26年10月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

みずほ投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1.上記は、当社が監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の中間監査報告書

平成26年12月5日

みずほ投信投資顧問株式会社  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 江見 睦生 印  
業務執行社員  
指定有限責任社員 公認会計士 福村 寛 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているみずほ投信投資顧問株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第52期事業年度の中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

## 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、みずほ投信投資顧問株式会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注)1. 上記は、当社が中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。